

0001

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：基礎

情報戦略を監査する際、最も重要な確認はどれか。

- ア．経営戦略・事業目標とIT施策の対応関係が明確であること
- イ．導入する製品名が多いこと
- ウ．IT予算を毎年増額していること
- エ．既存システムを全て維持すること

答え・解説

正答：ア

ア：情報戦略は経営戦略を実現するための方向付けであり、事業目標との整合が必要である。

イ：製品数は経営戦略との整合を示さない。

ウ：予算額だけでは戦略の妥当性を評価できない。

エ：維持自体が戦略目的ではない。

総合解説：監査では、経営課題からIT施策、KPI、投資案件までが論理的につながっているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0002

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：基礎

システム企画で現行業務の課題を把握する目的として最も適切なものはどれか。

- ア．現行業務を必ずそのままシステム化するため
- イ．将来像とのギャップを明確にし、システム化の対象と優先度を定めるため
- ウ．担当者の人数を減らすことだけを目的にする
- エ．システム化範囲を無制限に広げるため

答え・解説

正答：イ

ア：非効率な業務を固定化するおそれがある。

イ：現状分析は将来の業務・システム像を設計する前提となる。

ウ：システム化目的はより広い経営課題に基づく。

エ：課題と効果に応じて範囲を定める。

総合解説：監査ではAs-IsとTo-Beの差異が分析され、課題とシステム化施策が対応付けられているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0003

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：基礎

システム化投資の事前評価として最も適切なものはどれか。

- ア．初期費用だけを比較する
- イ．提案ベンダの知名度だけで決める
- ウ．期待効果、総コスト、主要リスク、代替案を比較し、意思決定根拠を残す
- エ．定量効果がない案件は全て否定する

答え・解説

正答：ウ

ア：運用・保守等のライフサイクルコストを見落とす。

イ：投資効果やリスクの評価にならない。

ウ：投資判断は便益だけでなくコスト・リスク・代替案を含む総合評価が必要である。

エ：法令対応やリスク低減など定性的効果もある。

総合解説：監査ではビジネスケース、費用対効果、リスク、代替案、評価前提が明確かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0004

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：標準

複数のIT投資案件をポートフォリオとして管理する主な目的はどれか。

- ア．全案件へ同額の予算を配るため
- イ．全案件を同時に開始するため
- ウ．既存案件の中止を禁止するため
- エ．経営目標への貢献度とリスクを踏まえて資源配分の優先順位を調整するため

答え・解説

正答：エ

ア：案件ごとの価値・リスクが異なる。

イ：資源制約を無視した管理になる。

ウ：状況変化に応じて継続可否を見直す必要がある。

エ：個別最適ではなく、全社として投資配分を最適化することが重要である。

総合解説：監査では案件間の優先順位、依存関係、資源制約、継続・中止判断が経営方針に沿って管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0005

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：標準

システム企画のロードマップ監査で最も適切な確認はどれか。

- ア．施策間の依存関係、実施時期、前提条件、責任部門が明確で更新されていること
- イ．全施策の開始日を同日にする
- ウ．一度作成したら変更しない
- エ．責任部門を定めない

答え・解説

正答：ア

ア：ロードマップは複数施策の順序と依存関係を可視化する。

イ：依存関係を無視している。

ウ：経営環境や進捗に応じ見直す必要がある。

エ：実行責任が不明確になる。

総合解説：監査では戦略目標から施策、マイルストーン、依存関係、責任、見直し条件がつながっているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0006

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：標準

経営会議で承認したDX施策について、導入後の効果測定が行われていない。監査上の主な問題はどれか。

- ア．システムが稼働していれば効果測定は不要である
- イ．期待効果が実現したか確認できず、投資判断の妥当性や是正要否を評価できない
- ウ．予算内なら必ず成功とみなせる
- エ．利用者数だけで全効果を判断できる

答え・解説

正答：イ

ア：稼働は経営効果の実現を保証しない。

イ：IT投資は導入後も成果をモニタリングする必要がある。

ウ：価値実現の評価が欠けている。

エ：案件目的に応じ複数指標が必要である。

総合解説：監査では事前に定めたKPI・便益指標と実績を比較し、差異原因と改善策が管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0007

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：標準

システム企画でエンタープライズアーキテクチャを考慮する主な利点はどれか。

- ア．全システムを同一製品に統一すること
- イ．個別部門が独自に最適化すること
- ウ．業務・データ・アプリケーション・技術の全体整合を図り、重複や局所最適を抑えること
- エ．アーキテクチャの更新を禁止すること

答え・解説

正答：ウ

ア：必ずしも単一製品化を意味しない。

イ：全体最適と逆方向になり得る。

ウ：全社視点で構造を整理することで個別システムの乱立を抑えられる。

エ：環境変化に応じた見直しが必要である。

総合解説：監査では全社標準、データ連携、重複機能、技術負債、将来拡張性が企画段階で考慮されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0008

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：標準

システム企画の中止基準をあらかじめ定める主な理由はどれか。

- ア．一度開始した案件を必ず中止するため
- イ．担当者の責任追及だけを目的にする
- ウ．リスク評価を不要にするため
- エ．前提崩れや効果不足が明らかな案件へ追加投資を続けるリスクを抑えるため

答え・解説

正答：エ

ア：条件に応じて判断する。

イ：経営資源の適切な配分が主目的である。

ウ：中止判断にもリスク評価が必要である。

エ：継続判断の客観性を高め、サンクコストへの固執を避ける。

総合解説：監査ではステージゲートや継続基準があり、費用・効果・リスクの変化を踏まえた再承認が行われているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0009

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：応用

全社システム企画で部門ごとの要求が競合した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア：経営目標、全社最適、リスク、費用対効果に基づく透明な基準で優先順位を決める
- イ：声の大きい部門の要求を常に優先する
- ウ：全要求を無条件に採用する
- エ：IT部門だけで経営影響を考慮せず決定する

答え・解説

正答：ア

ア：要求の競合は事前に定めた評価基準で調整するのが望ましい。

イ：客観性を欠く。

ウ：予算・資源・複雑性が制御できない。

エ：事業部門・経営層の関与が必要である。

総合解説：監査では案件選定基準、意思決定者、評価記録、例外承認が明確かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0010

企画・要件・調達監査 > 情報戦略・システム企画 | 難易度：応用

システム企画段階で情報セキュリティを考慮する最も適切な理由はどれか。

- ア：運用開始後に考えれば十分だから
- イ：後工程での追加対策より早期に要求へ組み込む方が、設計上の抜けや手戻りを抑えやすいから
- ウ：セキュリティはベンダだけの責任だから
- エ：セキュリティ要件は業務要件と無関係だから

答え・解説

正答：イ

ア：後付けでは制約やコストが増えることがある。

イ：セキュリティは企画・要件段階から組み込むことが重要である。

ウ：発注者側にも要求定義・リスク管理責任がある。

エ：事業継続・法令・顧客信頼に直結する。

総合解説：監査では企画時のリスク分析が要件・予算・ロードマップへ反映されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0011

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：基礎

要件定義で最も重要な成果の一つはどれか。

- ア．要求を担当者の記憶だけで管理する
- イ．要件を開発完了後に確定する
- ウ．業務・機能・非機能要求を関係者間で合意し、追跡可能な形で文書化すること
- エ．機能要件だけ定義し非機能要件を省略する

答え・解説

正答：ウ

ア：認識差や漏れが発生する。

イ：手戻りと契約紛争を招きやすい。

ウ：要件は後工程の設計・テスト・受入れの基準となる。

エ：性能・可用性・セキュリティ等が抜ける。

総合解説：監査では要件の明確性、承認、版管理、変更履歴、テストとの対応を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0012

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：基礎

性能要件が『ピーク時でも十分に速いこと』とだけ記載されていた。監査上の最も適切な指摘はどれか。

- ア．画面配色だけを詳細化すれば十分である
- イ．『高速であること』のまま開発者判断へ委ねればよい
- ウ．機能要件へ変更し、性能条件は削除すべきである
- エ．応答時間、同時利用者数、測定条件などを定量化し、検証可能な非機能要件へ具体化すべきである

答え・解説

正答：エ

ア：配色だけでは性能要求の曖昧さを解消できない。

イ：曖昧なままでは設計・テスト・受入れの判定基準にならない。

ウ：性能は代表的な非機能要件であり削除すべきではない。

エ：性能目標は測定条件を含めて定量化することで、設計と受入テストの客観的基準になる。

総合解説：非機能要件は『速い』『高可用』のような抽象表現ではなく、負荷条件、測定方法、目標値などを検証可能に定義する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0013

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：基礎

受入テストで要件IDとの対応が付いていないテストケースが多数見つかった。最も適切な監査対応はどれか。

- ア．要件と設計・テストの対応関係を再構成し、未検証要件や不要テストの有無を確認する
- イ．対応付けをせず、テスト件数が多ければ十分と判断する
- ウ．テストケースを全て削除して要件定義からやり直す
- エ．要件IDがなくても開発者の記憶で対応関係を説明できれば十分とする

答え・解説

正答：ア

ア：トレーサビリティを再構成すれば、要件漏れ、未検証要件、重複・不要テストを特定できる。

イ：件数だけでは重要要件が検証されたか確認できない。

ウ：全面やり直しは過剰であり、まず対応関係を確認すべきである。

エ：個人の記憶に依存すると追跡性と再現性が不足する。

総合解説：要件トレーサビリティは、各要求が設計・実装・テスト・受入れまで追跡できる状態を確保し、漏れや不整合を検出するために用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0014

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：標準

要件の受入基準として最も適切なものはどれか。

- ア．利用者が何となく満足すること
- イ．検証方法と合否条件が客観的に判定できる具体的な基準
- ウ．開発者が完成と思うこと
- エ．テストを実施しなくてもよいこと

答え・解説

正答：イ

ア：客観的に判定しにくい。

イ：受入基準は完成判定の曖昧さを減らす。

ウ：発注側の受入基準にならない。

エ：検証可能性が必要である。

総合解説：監査では性能値、業務シナリオ、許容障害、データ移行精度などが測定可能に定義されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0015

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：標準

要件定義でステークホルダー分析を行う主な理由はどれか。

- ア．利用部門を一つに限定するため
- イ．対立する要求を無視するため
- ウ．影響を受ける関係者と要求・権限・利害を把握し、重要要求の抜けを防ぐため
- エ．要件承認者を不明確にするため

答え・解説

正答：ウ

ア：実際の関係者を広く把握する。

イ：競合要求を調整する必要がある。

ウ：関係者を漏らすと後工程で重大要求が追加される可能性がある。

エ：責任者を明確にする。

総合解説：監査では利用者、業務責任者、法務、セキュリティ、運用、外部委託先等が適切に関与しているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0016

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：標準

システム化計画でフィージビリティを評価する際、最も適切な観点はどれか。

- ア．技術的に可能なら他は無視する
- イ．初期費用だけを見る
- ウ．ベンダの営業説明だけで判断する
- エ．技術、経済、運用、スケジュール、法令・組織面の実現可能性

答え・解説

正答：エ

ア：予算や運用面で成立しない可能性がある。

イ：ライフサイクル全体の実現性を評価できない。

ウ：客観的検証が必要である。

エ：実現可能性は単一観点ではなく複数面から評価する。

総合解説：監査では前提、制約、代替案、PoC結果、費用見積り等が意思決定へ反映されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0017

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：標準

要件変更管理で最も適切な手続はどれか。

- ア：変更理由、影響範囲、費用・納期・品質への影響を評価し、承認後にベースラインを更新する
- イ：口頭依頼だけで即時変更する
- ウ：変更履歴を残さない
- エ：変更を全て禁止する

答え・解説

正答：ア

ア：要件変更はスコープ・契約・テストへ連鎖するため統制が必要である。

イ：承認・影響評価・証跡が不足する。

ウ：後から経緯を追跡できない。

エ：正当な変更要求へ対応できない。

総合解説：監査では変更要求票、影響分析、承認、版管理、関連成果物の更新が一貫しているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0018

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：標準

データ移行要件として最も適切なものはどれか。

- ア：移行件数だけ決める
- イ：移行対象、変換規則、照合方法、許容誤差、切替え・リカバリ条件を定義する
- ウ：本番切替え時に初めて変換規則を決める
- エ：旧データの照合を行わない

答え・解説

正答：イ

ア：品質・検証・失敗時対応が不足する。

イ：移行は業務継続とデータ完全性に直結するため具体的要件が必要である。

ウ：重大な手戻りになる。

エ：欠損・誤変換を検出できない。

総合解説：監査では移行リハーサル、件数・金額照合、例外処理、ロールバック手順が計画されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0019

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：応用

個人情報を扱う新システムの要件定義で最も適切な対応はどれか。

- ア．本番稼働後に必要なら追加する
- イ．個人情報保護は運用担当だけの問題とする
- ウ．利用目的・アクセス・保存期間・ログ・削除等のプライバシー要求を業務要件とともに定義する
- エ．全利用者に同じアクセス権を与える

答え・解説

正答：ウ

ア：後付けでは設計上の制約や漏れが生じる。

イ：システム設計にも反映が必要である。

ウ：法令・リスクに基づく要求を早期に組み込むことが重要である。

エ：最小権限に反する。

総合解説：監査では法令・社内規程・リスク評価から具体的なシステム要求へ落とし込まれているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0020

企画・要件・調達監査 > 要件定義・システム化計画 | 難易度：応用

要件定義書の承認者として最も適切な考え方はどれか。

- ア．開発ベンダだけで承認する
- イ．承認者を設定しない
- ウ．全従業員の全員一致を必須にする
- エ．業務要件の責任を負い、システム化範囲と受入条件を判断できる権限者を含める

答え・解説

正答：エ

ア：発注者側の要求責任が不明確になる。

イ：要件確定の責任が曖昧になる。

ウ：実務上の意思決定権限を明確にすべきである。

エ：要件の合意には業務側の責任ある承認が必要である。

総合解説：監査では要件責任者、承認経路、未解決事項、条件付き承認の管理を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0021

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：基礎

複数社から比較可能な提案を得るためにRFPへ盛り込む内容として、最も重要な組合せはどれか。

- ア．調達目的、要求事項、提案条件、評価方法、契約上の主要条件
- イ．採用するベンダ名を事前に確定する
- ウ．評価基準を提案受領後に決める
- エ．要求事項を意図的に曖昧にする

答え・解説

正答：ア

ア：RFPは複数提案を比較可能にし、発注者の要求を明確に伝える文書である。

イ：公正な選定を損なう。

ウ：恣意的な選定につながる。

エ：比較・契約の基礎が弱くなる。

総合解説：監査では要求、前提、納期、成果物、SLA、評価基準、質問手続等が明確かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0022

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：基礎

ベンダ選定の公正性を高める最も適切な方法はどれか。

- ア．提案受領後に特定ベンダへ有利な基準を追加する
- イ．提案募集前に評価項目と配点を定め、複数評価者で根拠を記録する
- ウ．価格だけで全案件を決める
- エ．評価結果を記録しない

答え・解説

正答：イ

ア：公正性を損なう。

イ：事前基準と評価証跡により恣意性を抑えられる。

ウ：品質・能力・リスク等を評価できない。

エ：選定根拠を説明できない。

総合解説：監査では利益相反管理、評価基準、採点根拠、承認、価格以外の品質・実績評価を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0023

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：基礎

固定価格契約が比較的適する状況はどれか。

- ア．要件が未確定で頻繁に変わる研究開発案件
- イ．作業量を事前に全く見積もれない案件
- ウ．要求範囲と成果物が十分明確で、変更可能性が低い案件
- エ．成果物を定義しない支援業務

答え・解説

正答：ウ

ア：変更時の契約調整が多くなる。

イ：固定価格の前提が弱い。

ウ：範囲が明確なら価格リスクを契約で固定しやすい。

エ：契約範囲を明確にしにくい。

総合解説：監査では契約方式が要件確定度、リスク分担、変更可能性に合っているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0024

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：標準

調達契約で受入条件を明確にする主な理由はどれか。

- ア．ベンダの自己申告だけで検収するため
- イ．テストを省略するため
- ウ．契約変更を無制限にするため
- エ．成果物が契約要求を満たしたか客観的に判定し、支払・検収の基準にするため

答え・解説

正答：エ

ア：発注者側の客観的確認が必要である。

イ：受入れのための検証が必要である。

ウ：受入条件は範囲明確化に役立つ。

エ：受入条件は契約履行の判断基準となる。

総合解説：監査では成果物、品質基準、受入テスト、不具合対応、再検収、支払条件が対応しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0025

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：標準

ベンダ選定で利益相反が疑われる場合、最も適切な統制はどれか。

- ア．評価者の利害関係を申告させ、必要に応じ評価から除外し記録する
- イ．利害関係を申告しなくてよい
- ウ．特定ベンダとの関係を隠す
- エ．利益相反があっても一人で最終決定する

答え・解説

正答：ア

ア：選定の公正性と説明責任を確保する。

イ：恣意的評価のリスクが高まる。

ウ：透明性を損なう。

エ：牽制が不足する。

総合解説：監査では評価者選任、申告、除外、承認、議事録等の統制を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0026

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：標準

クラウドサービス契約で監査上重要な条項はどれか。

- ア．ベンダの広告文だけ
- イ．サービスレベル、責任分界、事故通知、データ取扱い、再委託、終了時の返却・削除
- ウ．月額料金だけ
- エ．契約終了後の扱いを定めない

答え・解説

正答：イ

ア：契約上の義務にならない場合がある。

イ：外部サービス特有の運用・情報管理リスクを契約で明確にする必要がある。

ウ：重要な責任・品質条件が欠ける。

エ：データ残存・ロックインリスクが高まる。

総合解説：監査ではSLA、セキュリティ、データ所在、監査権、再委託、出口戦略等を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0027

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：標準

RFPの質問回答を一部ベンダだけへ個別提供した場合の主な問題はどれか。

- ア．必ず契約が無効になる
- イ．価格評価が不要になる
- ウ．提案条件の公平性が損なわれ、選定結果への説明責任が弱くなる
- エ．RFP自体が不要になる

答え・解説

正答：ウ

ア：法的効果は状況による。

イ：むしろ選定公正性が問題になる。

ウ：重要情報は原則として同条件で候補者へ共有する必要がある。

エ：RFP運用の不備である。

総合解説：監査では質問窓口、回答共有、締切、提案変更の扱いが統一されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0028

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：標準

契約変更を管理する手続として最も適切なものはどれか。

- ア．現場担当者のメールだけで全て変更する
- イ．変更額を記録しない
- ウ．契約変更を成果物完成後にまとめて処理する
- エ．変更要求の範囲・費用・納期・責任への影響を評価し、双方の正式承認を得て契約を更新する

答え・解説

正答：エ

ア：権限・契約手続が不十分な場合がある。

イ：予算統制ができない。

ウ：実施時点の責任・条件が曖昧になる。

エ：口頭合意だけでは契約範囲や支払条件の紛争が生じやすい。

総合解説：監査では変更要求、見積り、承認、契約改定、請求との整合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0029

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：応用

ベンダの再委託を管理する最も適切な方法はどれか。

- ア：再委託条件、事前承認、セキュリティ要件、責任継承、監督方法を契約で定める
- イ：再委託先は一切把握しない
- ウ：再委託先には契約要件を適用しない
- エ：ベンダが自由に再委託できるようにする

答え・解説

正答：ア

ア：再委託しても元のベンダの責任や発注者の管理責任が消えるわけではない。

イ：サプライチェーンリスクを管理できない。

ウ：統制水準が低下する。

エ：重要業務では承認・監督が必要である。

総合解説：監査では再委託先一覧、承認、同等義務、事故連絡、監査権等を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0030

企画・要件・調達監査 > 調達・RFP・契約・ベンダ選定 | 難易度：応用

ベンダ退出・契約終了の計画を調達時から定める主な理由はどれか。

- ア：契約を必ず短期で終了するため
- イ：データ・知識・資産の返還と移行を確保し、サービス停止やロックインの影響を抑えるため
- ウ：ベンダへ全データを永久保存させるため
- エ：移行先を絶対に同一ベンダへ限定するため

答え・解説

正答：イ

ア：終了そのものが目的ではない。

イ：終了条件は継続性・切替え可能性に直結する。

ウ：削除・返却条件が必要である。

エ：ロックインを強める。

総合解説：監査ではデータ形式、引継ぎ、知的財産、削除、移行支援、期限、費用が契約に含まれるかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0031

開発・プロジェクト監査＞設計・開発・テスト・品質 | 難易度：基礎

基本設計の承認前レビューで監査人が最も重視すべき確認はどれか。

- ア．レビュー後はテストを不要にすること
- イ．設計者本人だけで承認すること
- ウ．要件との整合、設計上の欠陥、保守性・安全性上の問題を実装前に発見すること
- エ．設計変更を禁止すること

答え・解説

正答：ウ

ア：レビューとテストは補完関係にある。

イ：独立した視点の確認が有効である。

ウ：早期レビューは後工程での手戻りを抑える。

エ：問題があれば適切に修正する必要がある。

総合解説：監査ではレビュー基準、参加者、指摘、是正、承認の証跡が残されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0032

開発・プロジェクト監査＞設計・開発・テスト・品質 | 難易度：基礎

あるモジュールの計算ロジックが詳細設計どおりかを開発単位で検証するテストはどれか。

- ア．受入テスト
- イ．結合テスト
- ウ．システムテスト
- エ．単体テスト

答え・解説

正答：エ

ア：受入テストは利用者・発注者の要求を満たすかを確認する。

イ：結合テストはモジュール間・インタフェースを検証する。

ウ：システムテストはシステム全体を対象に要求との適合を確認する。

エ：単体テストは個々のプログラムやモジュールのロジックを設計に照らして検証する。

総合解説：詳細設計に基づいて個々のモジュールを検証するのは単体テストである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0033

開発・プロジェクト監査 > 設計・開発・テスト・品質 | 難易度：基礎

結合テストで重点的に確認する事項はどれか。

- ア．モジュール間や外部インタフェース間のデータ受渡しと連携動作
- イ．個別関数の内部ロジックだけ
- ウ．経営目標の達成度
- エ．契約金額の妥当性

答え・解説

正答：ア

ア：結合テストは構成要素間のインタフェースを検証する。

イ：単体テストの主対象である。

ウ：システムテストの直接対象ではない。

エ：調達監査の論点である。

総合解説：監査では正常系だけでなく異常系、タイムアウト、再送、データ不整合等が検証されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0034

開発・プロジェクト監査 > 設計・開発・テスト・品質 | 難易度：標準

税率計算ロジックを修正した後、修正箇所以外の既存機能に副作用がないか確認するために優先すべきテストはどれか。

- ア．結合テストだけを追加する
- イ．回帰テスト
- ウ．要件レビューだけを再実施する
- エ．運用監視だけで確認する

答え・解説

正答：イ

ア：結合テストは連携確認には有効だが、既存機能全体への副作用確認には不足し得る。

イ：回帰テストは変更によって既存機能へ意図しない影響が生じていないかを確認する。

ウ：要件レビューだけでは実装変更の副作用を検出できない。

エ：本番監視は事後検知であり、リリース前の副作用検証を代替しない。

総合解説：変更箇所以外の既存機能への副作用を確認する代表的な手法は回帰テストである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0035

開発・プロジェクト監査 > 設計・開発・テスト・品質 | 難易度：標準

受入テストの予定期間が終了したが、重大欠陥が未解決である。完了判定として最も適切なものはどれか。

- ア．テスト期間が終われば自動的に完了とする
- イ．欠陥件数が1件でもあれば必ず中止する
- ウ．事前に定めた終了基準に基づき、重要テストの完了と残存欠陥の受容可否を判断する
- エ．開発者が問題ないと言えば完了とする

答え・解説

正答：ウ

ア：未解決重大欠陥が残る可能性がある。

イ：重要度や受容条件を考慮する。

ウ：単に予定日到来で終了するのではなく、品質基準に基づく判定が必要である。

エ：客観的基準と承認が必要である。

総合解説：監査ではカバレッジ、重大欠陥、再テスト結果、未解決リスク、承認者が明確かを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0036

開発・プロジェクト監査 > 設計・開発・テスト・品質 | 難易度：標準

二つの開発チームの欠陥密度を比較する際、監査人が先にそろえるべき条件はどれか。

- ア．欠陥密度が低ければテストは不要とする
- イ．規模を考慮せず欠陥件数だけ比較する
- ウ．重大度を一切見ない
- エ．規模の測定方法や工程、欠陥の定義を揃えて比較する

答え・解説

正答：エ

ア：指標だけで品質を保証できない。

イ：案件規模の差を反映できない。

ウ：重大欠陥の存在は別途評価が必要である。

エ：指標の算定条件が異なると単純比較できない。

総合解説：監査では欠陥件数、密度、流出率、修正再発等を定義が一貫した形で利用しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0037

開発・プロジェクト監査＞設計・開発・テスト・品質 | 難易度：標準

本番障害につながり得る重大欠陥が受入テストで見つかったが、納期優先で未修正のまま移行しようとしている。最も適切な監査対応はどれか。

- ア．残存リスク、代替策、承認権限を確認し、受容根拠が不十分なら移行判定の見直しを求める
- イ．納期優先なら無条件で容認する
- ウ．欠陥記録を削除する
- エ．監査人が自らプログラムを修正する

答え・解説

正答：ア

ア：重大欠陥を認識したまま移行する場合は明示的なリスク受容が必要である。

イ：品質・事業リスクを無視している。

ウ：監査証跡を失う。

エ：業務執行へ過度に関与する。

総合解説：監査では重大度、影響、回避策、承認、フォロー計画を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0038

開発・プロジェクト監査＞設計・開発・テスト・品質 | 難易度：標準

静的テストの例として最も適切なものはどれか。

- ア．負荷テストを実行する
- イ．コードレビューや設計書レビューで実行せず欠陥を検出する
- ウ．本番環境で障害復旧を行う
- エ．利用者が実データを入力する

答え・解説

正答：イ

ア：動的テストである。

イ：静的テストは対象を実行せずに確認する。

ウ：運用作業である。

エ：動的な利用・テストである。

総合解説：監査ではレビュー、静的解析、コーディング規約検査などが品質確保に組み込まれているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0039

開発・プロジェクト監査＞設計・開発・テスト・品質 | 難易度：応用

テストデータ管理で最も適切な対応はどれか。

- ア．テスト環境なら本番データを無制限にコピーする
- イ．テスト完了後も不要データを永久保存する
- ウ．本番個人データを使う必要性を評価し、必要ならマスキング等で保護する
- エ．アクセス制御を本番より緩くしてよい

答え・解説

正答：ウ

ア：漏えいリスクがある。

イ：保有リスクを高める。

ウ：テスト環境でも機密情報保護が必要である。

エ：テストデータの機密性に応じ管理する必要がある。

総合解説：監査ではデータ選定、匿名化・マスキング、アクセス、保存・廃棄を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0040

開発・プロジェクト監査＞設計・開発・テスト・品質 | 難易度：応用

CI環境で自動テストを導入する主な利点はどれか。

- ア．人によるレビューを完全に不要にする
- イ．全ての品質リスクをゼロにする
- ウ．本番承認を不要にする
- エ．変更のたびに一定のテストを繰り返し、欠陥を早期に検出しやすくする

答え・解説

正答：エ

ア：自動化できない判断もある。

イ：テストにも限界がある。

ウ：リリース統制は別途必要である。

エ：継続的な統合と自動検証によりフィードバックが早くなる。

総合解説：監査ではテスト結果、失敗時の停止条件、テストコードの変更管理、カバレッジ等を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0041

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：基礎

WBSを作成する主な目的はどれか。

- ア．プロジェクトの成果物と作業を管理可能な単位へ階層的に分解すること
- イ．組織図だけを作ること
- ウ．リスクを全て削除すること
- エ．契約価格を自動計算すること

答え・解説

正答：ア

ア：WBSはスコープ、工数、責任、進捗管理の基礎となる。

イ：WBSは作業分解である。

ウ：リスク管理とは別の手法である。

エ：価格算定の直接機能ではない。

総合解説：監査では成果物ベースで漏れなく分解され、担当・見積り・進捗へつながっているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0042

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：基礎

クリティカルパスの説明として最も適切なものはどれか。

- ア．最も費用が高い作業だけ
- イ．遅れると原則としてプロジェクト完了日へ直接影響する一連の作業経路
- ウ．最も人数が多い作業経路
- エ．必ず品質が最も低い作業

答え・解説

正答：イ

ア：コストとは別概念である。

イ：余裕時間がない又は最小の経路が完了時期を左右する。

ウ：人数では決まらない。

エ：品質とは直接関係しない。

総合解説：監査ではクリティカル作業の遅延、余裕時間、依存関係、回復策が管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0043

開発・プロジェクト監査 > プロジェクト管理 (WBS・EVM等) | 難易度: 基礎

EVMでBAC=1,000万円、現在のCPI=0.80であり、今後も同じコスト効率が続くと仮定する。EACの概算はいくらか。

- ア．800万円 (BAC×CPIで算定)
- イ．1,000万円 (BACをそのままEACとする)
- ウ．1,250万円 (BAC÷CPIで算定)
- エ．1,800万円 (与条件から導けない過大値)

答え・解説

正答: ウ

ア: BAC×CPIでは将来総コストの推定にならない。

イ: CPIが1未満で今後も同効率ならBACを上回る見込みになる。

ウ: $EAC = BAC \div CPI = 1,000 \div 0.80 = 1,250$ 万円である。

エ: 1,800万円となる根拠はこの前提からは得られない。

総合解説: 今後も現在と同じコスト効率が続くと仮定する単純モデルでは、 $EAC = BAC / CPI$ で求める。1,000万円 ÷ 0.80 = 1,250万円である。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0044

開発・プロジェクト監査 > プロジェクト管理 (WBS・EVM等) | 難易度: 標準

EVMで計画価値PVが120、出来高EVが90である。スケジュール効率を示すSPIはどれか。

- ア．0.90 (EV÷ACでCPIを算定する値)
- イ．1.11 (AC÷EVと逆に算定)
- ウ．1.33 (PV÷EVと逆に算定)
- エ．0.75 (EV÷PVでSPIを算定)

答え・解説

正答: エ

ア: $EV \div AC$ でCPIに相当する。

イ: $AC \div EV$ である。

ウ: $PV \div EV$ でSPIの逆数である。

エ: $SPI = EV \div PV = 90 \div 120 = 0.75$ で、進捗は計画より遅れている。

総合解説: SPIが1未満なら計画価値に対して出来高が不足し、進捗遅れを示す。

対象: 2026年度 / 基準日 2026-09-02

0045

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：標準

プロジェクトの進捗率を担当者の自己申告だけで管理する主な問題はどれか。

- ア．出来高の基準が曖昧になり、実際より進んでいるように見える可能性がある
- イ．自己申告は必ず不正だから
- ウ．工数管理が不要になるから
- エ．スケジュールを作成できないから

答え・解説

正答：ア

ア：客観的な完了基準や成果物確認が必要である。

イ：必ずしも虚偽ではない。

ウ：むしろ客観的進捗管理が必要である。

エ：作成自体は可能だが信頼性が問題となる。

総合解説：監査ではマイルストーン、完了条件、成果物、EVM等で進捗が検証可能かを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0046

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：標準

ベースラインとして管理すべきものの組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．担当者の個人的メモだけ
- イ．承認済みのスコープ、スケジュール、コスト等の基準計画
- ウ．毎日変動する未承認案
- エ．過去案件の資料だけ

答え・解説

正答：イ

ア：公式な比較基準にならない。

イ：実績や変更を比較するための承認済み基準である。

ウ：ベースラインではない。

エ：当該案件の承認計画が必要である。

総合解説：監査ではベースライン変更が正式な変更管理を通じて行われているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0047

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：標準

プロジェクトのリスク登録簿に含める事項として最も適切なものはどれか。

- ア．リスク名だけ
- イ．発生済み課題だけ
- ウ．リスク内容、発生可能性、影響、所有者、対応策、期限・状態
- エ．完了後に全履歴を削除する

答え・解説

正答：ウ

ア：管理に必要な情報が不足する。

イ：未発生リスクも管理対象である。

ウ：継続的に追跡するため責任と対応を明確にする必要がある。

エ：学習・説明責任に使えない。

総合解説：監査ではリスクが定期更新され、重大リスクが適切にエスカレーションされているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0048

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：標準

マイルストーンレビューで最も適切な判断材料はどれか。

- ア．予定日になったことだけ
- イ．会議参加人数だけ
- ウ．消化予算だけ
- エ．成果物の完成状況、品質、残存リスク、次工程への移行条件

答え・解説

正答：エ

ア：品質や未解決事項を確認できない。

イ：移行可否の根拠にならない。

ウ：成果やリスクの評価が不足する。

エ：単なる日付到来ではなく、ゲート条件を満たしたかで判断する。

総合解説：監査では移行基準、承認者、未解決事項の扱いが明確かを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0049

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：応用

見積り精度を高めるため過去案件データを利用する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．規模・技術・難易度・生産性条件の類似性を確認し、差異を補正して利用する
- イ．最も古い案件をそのまま採用する
- ウ．過去の最小工数だけを使う
- エ．差異分析を行わない

答え・解説

正答：ア

ア：過去実績は前提条件が異なるとそのまま適用できない。

イ：技術や体制の変化を反映できない。

ウ：楽観的バイアスが強い。

エ：適用可能性を評価できない。

総合解説：監査では見積り手法、前提、係数、予備費、実績との差異分析が残されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0050

開発・プロジェクト監査＞プロジェクト管理（WBS・EVM等） | 難易度：応用

プロジェクトの完了判定として最も適切なものはどれか。

- ア．開発者が作業を終えた時点で自動完了とする
- イ．成果物受入れ、未解決事項、契約・予算、引継ぎ、教訓を確認し正式に終結する
- ウ．未解決問題を全て記録から削除する
- エ．運用部門への引継ぎを行わない

答え・解説

正答：イ

ア：受入れや引継ぎが残る可能性がある。

イ：完了は作業終了だけでなく、受入れ・移管・記録まで含む。

ウ：残存リスクを隠す。

エ：サービス継続に支障が出る。

総合解説：監査では正式承認、契約精算、文書保管、教訓、残課題の移管を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0051

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：基礎

アジャイル開発におけるプロダクトバックログの説明として最も適切なものはどれか。

- ア．完了したコードだけの一覧
- イ．開発者の勤怠表
- ウ．製品に必要な機能・改善等を優先順位付きで管理する一覧
- エ．固定され変更できない契約書

答え・解説

正答：ウ

ア：未実施要求や改善も含む。

イ：要求管理とは無関係である。

ウ：要求を継続的に整理し優先順位を見直す。

エ：バックログは状況に応じ更新される。

総合解説：監査ではバックログ項目の優先順位、受入基準、変更履歴、責任者を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0052

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：基礎

アジャイル開発でDefinition of Doneを定める主な目的はどれか。

- ア．スプリント期間を無制限にするため
- イ．テストを省略するため
- ウ．要求変更を禁止するため
- エ．作業が完了したとみなす共通の品質基準を明確にするため

答え・解説

正答：エ

ア：期間管理とは別である。

イ：むしろテスト等を完了条件へ含める。

ウ：要求の優先順位は変わり得る。

エ：チーム内で完了の意味を揃え、未完了作業の持越しを減らす。

総合解説：監査ではコードレビュー、テスト、文書、セキュリティ確認等が完了条件として運用されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0053

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：基礎

アジャイル開発を監査する際、最も不適切な評価はどれか。

- ア．詳細な長期計画が固定されていないという理由だけで統制不備と判断する
- イ．バックログ変更の責任と履歴を確認する
- ウ．受入基準とテスト結果を確認する
- エ．リリース承認と構成管理を確認する

答え・解説

正答：ア

ア：アジャイルでは反復的計画・優先順位変更を前提とするため、統制方法も適合させて評価する必要がある。

イ：適切な監査観点である。

ウ：品質統制の確認として有効である。

エ：本番変更統制として重要である。

総合解説：監査では方法論の違いを理解し、目的・リスク・品質・変更の統制が実質的に機能しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0054

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：標準

スプリント末に完成したインクリメントを利用部門へ提示する場で、最も重視すべき活動はどれか。

- ア．個人の人事評価だけを行う
- イ．完成したインクリメントを関係者と確認し、今後のバックログ調整へ反映する
- ウ．本番障害だけを分析する
- エ．全バックログを固定する

答え・解説

正答：イ

ア：主目的ではない。

イ：成果とフィードバックを次の優先順位へつなげる。

ウ：別の活動である。

エ：レビュー結果に応じ変更され得る。

総合解説：監査では実際の成果物、受入れ、関係者フィードバック、バックログ更新の証跡を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0055

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：標準

変更管理で変更諮問機能を設ける主な目的はどれか。

- ア．全変更を必ず却下するため
- イ．変更申請を記録しないため
- ウ．変更の影響・リスク・優先度を横断的に評価し、実施可否を適切に判断するため
- エ．開発者だけで本番変更を決めるため

答え・解説

正答：ウ

ア：目的は適切な判断である。

イ：むしろ証跡を残す。

ウ：重要変更は複数観点で評価する必要がある。

エ：牽制を確保する。

総合解説：監査では変更分類、影響評価、承認、実施計画、ロールバック、事後レビューを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0056

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：標準

構成管理におけるベースラインの目的として最も適切なものはどれか。

- ア．全構成を永久に変更禁止にする
- イ．実際の本番構成を記録しない
- ウ．ソースコードだけを対象にする
- エ．承認済みの構成状態を基準として識別し、変更を管理可能にすること

答え・解説

正答：エ

ア：承認された変更は可能である。

イ：構成差異を把握できない。

ウ：設定、文書、ライブラリ等も構成品目になり得る。

エ：基準状態を定めることで不正・未承認変更を検出しやすい。

総合解説：監査では構成品目、版、依存関係、承認済み状態、実機との差異が管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0057

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：標準

ソースコードのバージョン管理で最も重要な統制はどれか。

- ア：変更者・変更内容・日時を追跡でき、承認された版を再現できること
- イ：全開発者が履歴を削除できる
- ウ：本番版がどのコミットか不明にする
- エ：タグやリリース識別を行わない

答え・解説

正答：ア

ア：変更履歴と再現性は品質・不正防止の基礎となる。

イ：追跡性が失われる。

ウ：再現・障害分析が困難になる。

エ：版管理が曖昧になる。

総合解説：監査ではアクセス権、ブランチ方針、レビュー、タグ、リリース成果物との対応を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0058

開発・プロジェクト監査 > アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：標準

本番環境の設定が構成管理台帳と一致しないことが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア：台帳を実態に合わせて理由なく書き換える
- イ：差異の原因と承認有無を調査し、未承認変更なら是正と影響評価を行う
- ウ：差異を無視する
- エ：本番設定を無条件に初期化する

答え・解説

正答：イ

ア：未承認変更を隠すことになる。

イ：実態と記録の不一致は変更統制の不備を示す可能性がある。

ウ：障害・セキュリティリスクが残る。

エ：影響評価なしの対応は危険である。

総合解説：監査では構成差異、変更チケット、実施者、承認、影響を突合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0059

開発・プロジェクト監査＞アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：応用

アジャイル案件で要件変更が頻繁でも統制を保つために最も適切な方法はどれか。

- ア．変更履歴を残さない
- イ．全要求を口頭だけで管理する
- ウ．バックログの優先順位変更と受入基準を管理し、リリース単位で承認・テスト・構成を追跡する
- エ．頻繁な変更を理由に本番変更承認を省略する

答え・解説

正答：ウ

ア：説明責任が弱くなる。

イ：追跡性が不足する。

ウ：柔軟性と統制は両立できる。

エ：運用リスクが高まる。

総合解説：監査では反復的要求管理と本番リリース統制の双方が機能しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0060

開発・プロジェクト監査＞アジャイル・変更・構成管理 | 難易度：応用

構成品目を一意に識別する主な理由はどれか。

- ア．構成品目数を増やすため
- イ．全品目を同じ名前にするため
- ウ．変更承認を不要にするため
- エ．どの版・設定・成果物がどの環境で使用されているか正確に追跡するため

答え・解説

正答：エ

ア：目的ではない。

イ：識別性が失われる。

ウ：むしろ変更管理の基礎となる。

エ：識別できなければ変更影響や障害原因を追跡しにくい。

総合解説：監査では命名規則、版、所有者、環境、関連変更が追跡できるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0061

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：基礎

運用手順書を整備する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．定常・例外作業を再現可能にし、担当者によるばらつきや属人化を抑えるため
- イ．担当者の経験だけで運用するため
- ウ．障害記録を不要にするため
- エ．手順変更を禁止するため

答え・解説

正答：ア

ア：標準手順は安定運用と引継ぎの基礎となる。

イ：属人化を強める。

ウ：例外や障害は記録が必要である。

エ：環境変化に応じ改訂する必要がある。

総合解説：監査では手順の承認、版管理、教育、例外時対応、実態との整合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0062

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：基礎

バッチジョブ監査で最も適切な確認はどれか。

- ア．成功ログだけを残し失敗ログを削除する
- イ．予定ジョブの実行結果、異常終了、再実行、依存関係、例外承認を追跡する
- ウ．異常終了を担当者の記憶だけで管理する
- エ．再実行の影響を確認しない

答え・解説

正答：イ

ア：原因分析や統制評価ができない。

イ：定例処理の完全性と異常対応を確認する。

ウ：追跡性が不足する。

エ：二重処理等のリスクがある。

総合解説：監査ではスケジュール、前後関係、異常通知、再実行手順、処理件数照合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0063

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：基礎

監視アラートの閾値が低すぎる場合の主なリスクはどれか。

- ア．必ず障害が減少する
- イ．監視ログが不要になる
- ウ．大量の不要アラートにより重要な異常が埋もれるアラート疲れが生じる
- エ．可用性が自動的に100%になる

答え・解説

正答：ウ

ア：過剰アラートは障害減少を保証しない。

イ：ログは引き続き必要である。

ウ：検知感度と運用負荷のバランスが必要である。

エ：監視だけで可用性は保証されない。

総合解説：監査では閾値、通知先、抑制条件、重大度、見直し実績が適切かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0064

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：標準

バックアップ方針として最も適切なものはどれか。

- ア．全システムで同じ頻度に固定する
- イ．取得できていれば復元確認は不要とする
- ウ．本番サーバと同じ障害領域だけに保管する
- エ．業務のRPO・データ重要度に応じて対象・頻度・世代・保管場所を定める

答え・解説

正答：エ

ア：重要度や更新頻度が異なる。

イ：復元不能なバックアップは役に立たない。

ウ：同時被災リスクがある。

エ：バックアップは事業要求に基づいて設計する必要がある。

総合解説：監査ではRPO、世代、暗号化、オフサイト・隔離、保存期限、復元テストを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0065

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：標準

バックアップの有効性を最も直接的に確認する方法はどれか。

- ア．定期的に復元テストを行い、所定時間内に必要データを復元できるか確認する
- イ．バックアップファイル名だけを見る
- ウ．容量が大きいことだけを確認する
- エ．担当者へ質問するだけ

答え・解説

正答：ア

ア：取得成功だけでは復元可能性を証明できない。

イ：内容の完全性を確認できない。

ウ：復元可能性を示さない。

エ：客観的な実証が不足する。

総合解説：監査ではテスト頻度、対象、結果、失敗時の改善、RTOとの整合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0066

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：標準

監視システム自体の障害に備える統制として最も適切なものはどれか。

- ア．監視システムは故障しないと仮定する
- イ．監視基盤の死活監視や代替通知経路を用意し、監視停止も検知できるようにする
- ウ．監視停止時は通知を行わない
- エ．ログを監視サーバだけに保存する

答え・解説

正答：イ

ア：単一障害点になり得る。

イ：監視対象だけでなく監視機能自体の可用性も必要である。

ウ：異常を認識できない。

エ：同時喪失のリスクがある。

総合解説：監査では監視基盤の冗長性、ヘルスチェック、通知試験、ログ保全を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0067

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：標準

運用ログの保管設計で最も適切な考え方はどれか。

- ア．全ログを即日削除する
- イ．誰でも改ざん可能な領域へ保存する
- ウ．監査・障害解析・セキュリティ・法令要求に応じて種類、保管期間、完全性、アクセスを定める
- エ．時刻同期を考慮しない

答え・解説

正答：ウ

ア：追跡・分析ができない。

イ：証拠性を損なう。

ウ：ログ目的ごとに必要な保持条件が異なる。

エ：複数システムの事象を関連付けにくい。

総合解説：監査では対象ログ、時刻、アクセス権、改ざん防止、容量、検索性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0068

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：標準

定期運用作業を自動化する際の監査上の最重要事項はどれか。

- ア．自動化したら監視を廃止する
- イ．スクリプトを誰でも変更可能にする
- ウ．実行ログを残さない
- エ．自動化ロジックの変更管理、実行権限、異常時停止・通知、実行結果を管理すること

答え・解説

正答：エ

ア：異常検知は必要である。

イ：未承認変更のリスクが高い。

ウ：処理結果を追跡できない。

エ：自動化は効率化する一方、誤設定が大規模影響を生む可能性がある。

総合解説：監査ではコード・設定の版管理、権限、テスト、ロールバック、ログを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0069

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：応用

日次処理の完了確認として、件数照合を行う主な目的はどれか。

- ア．入力件数と処理・出力件数の不一致から欠落・重複を検出するため
- イ．処理速度だけを測るため
- ウ．担当者の勤怠を確認するため
- エ．バックアップ容量を決めるため

答え・解説

正答：ア

ア：処理の完全性を確認する統制である。

イ：件数照合の主目的ではない。

ウ：運用処理とは無関係である。

エ：直接の目的ではない。

総合解説：監査ではコントロールトータル、件数・金額照合、例外処理、再実行時の二重処理防止を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0070

運用・サービス監査 > 運用管理・ジョブ・監視・バックアップ | 難易度：応用

運用担当者が本番障害対応で直接データを修正した。監査上最も重要な確認はどれか。

- ア．担当者が熟練者なら記録不要とする
- イ．修正の承認、対象・理由、変更前後、影響、再発防止が記録されているか
- ウ．修正後にログを削除する
- エ．障害が解消したので原因分析を行わない

答え・解説

正答：イ

ア：属人的な無統制変更になる。

イ：緊急対応でも追跡性と統制が必要である。

ウ：証跡を失う。

エ：再発リスクが残る。

総合解説：監査では緊急権限、承認、実行ログ、二者確認、事後レビューを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0071

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：基礎

インシデント管理の主な目的はどれか。

- ア．根本原因を必ず完全除去すること
- イ．全変更を禁止すること
- ウ．サービスを可能な限り早く正常状態へ戻し、事業への影響を最小化すること
- エ．構成品目を台帳登録すること

答え・解説

正答：ウ

ア：主に問題管理の目的である。

イ：変更管理の目的ではない。

ウ：原因究明よりも迅速なサービス回復が中心である。

エ：構成管理の活動である。

総合解説：監査では受付、分類、優先度、エスカレーション、復旧、クローズが管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0072

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：基礎

問題管理の主な目的はどれか。

- ア．全インシデントを即時復旧することだけ
- イ．利用者アカウントを発行すること
- ウ．SLAを締結すること
- エ．インシデントの根本原因を特定し、再発又は影響を低減すること

答え・解説

正答：エ

ア：インシデント管理の中心目的である。

イ：アクセス管理の活動である。

ウ：サービスレベル管理である。

エ：問題管理は原因分析と恒久対策に重点を置く。

総合解説：監査では重大・反復インシデントから問題記録、根本原因、既知の誤り、恒久対策へつながっているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0073

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：基礎

既知の誤り情報を管理する主な利点はどれか。

- ア：既知原因と回避策を再利用し、同種インシデントの復旧を迅速化できる
- イ：根本原因の恒久対策を不要にする
- ウ：全インシデントを同じ原因とみなす
- エ：記録をサービスデスクへ共有しない

答え・解説

正答：ア

ア：既知の問題に対するワークアラウンドを知識化する。

イ：必要に応じ恒久対策も行う。

ウ：個別確認が必要である。

エ：迅速な復旧に使えない。

総合解説：監査では問題記録と回避策が検索・共有され、更新・廃止管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0074

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

インシデントの優先度を決める最も適切な考え方はどれか。

- ア：受付順だけで決める
- イ：事業への影響度と緊急度を組み合わせて決める
- ウ：報告者の役職だけで決める
- エ：技術的な難しさだけで決める

答え・解説

正答：イ

ア：重大障害が後回しになる可能性がある。

イ：重大な影響・緊急性の高い事象を先に処理する。

ウ：客観的な事業影響を反映しない。

エ：事業影響を考慮する必要がある。

総合解説：監査では分類基準、重大インシデント条件、SLAとの整合、再評価が適切かを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0075

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

重大障害の復旧で緊急変更を実施したが、復旧後も事後レビューと変更記録の更新が行われていない。監査上の最も適切な評価はどれか。

- ア．緊急変更なので事後確認は不要であり、統制上の問題はない
- イ．復旧済みであれば変更記録だけ削除してよい
- ウ．緊急性は事後統制の省略理由にならず、実施内容・影響・承認を事後確認すべきである
- エ．緊急変更は必ず通常変更と同じ事前会議を経なければ無効である

答え・解説

正答：ウ

ア：緊急時は簡略化された承認経路を使っても、記録と事後確認は必要である。

イ：変更記録は追跡性・原因分析のため保全する必要がある。

ウ：緊急変更でも実施内容、影響、承認、必要な恒久対応を事後レビューすることが重要である。

エ：緊急性に応じた迅速な経路は認められ得るため、通常変更と完全に同一手続である必要はない。

総合解説：緊急変更は迅速性を優先した手続を設けられるが、無統制変更ではない。事後承認、変更記録更新、影響確認、必要に応じたPIRを行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0076

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

変更後レビューを行う主な目的はどれか。

- ア．全変更を元に戻すため
- イ．承認記録を削除するため
- ウ．変更失敗を隠すため
- エ．変更が目的を達成し、副作用や未解決事項がないかを確認するため

答え・解説

正答：エ

ア：成功した変更は維持する。

イ：証拠を保全する。

ウ：教訓を改善へつなげる必要がある。

エ：実施しただけでなく結果の妥当性を評価する。

総合解説：監査では成功基準、障害、ロールバック、教訓が変更記録へ反映されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0077

運用・サービス監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

構成管理データベースに期待される役割として最も適切なものはどれか。

- ア．構成品目と属性・関係を記録し、インシデントや変更の影響分析を支援する
- イ．全ログを永久保存するだけ
- ウ．利用者の給与情報を管理する
- エ．変更承認を不要にする

答え・解説

正答：ア

ア：構成関係を把握することでサービスへの影響を追跡しやすい。

イ：構成情報管理とは異なる。

ウ：目的外である。

エ：構成情報は変更管理を支援する。

総合解説：監査では実環境との一致、更新責任、関係性、監査結果が管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0078

運用・サービス監査 > インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：標準

CMDBと実環境に差異が多数ある場合の主なリスクはどれか。

- ア．SLAが自動的に向上する
- イ．障害・変更時の影響分析を誤り、復旧や変更判断を誤る可能性がある
- ウ．全インシデントが解消する
- エ．バックアップが不要になる

答え・解説

正答：イ

ア：差異はサービス管理を悪化させる。

イ：構成情報の正確性は複数プロセスの基礎となる。

ウ：逆に対応を困難にする。

エ：関係しない。

総合解説：監査では自動発見、棚卸、変更連携、差異是正の仕組みを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0079

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：応用

同じ障害が繰り返し発生しているのに毎回インシデントとして復旧するだけの場合、最も適切な改善はどれか。

- ア．インシデント記録を削除する
- イ．毎回担当者を変更するだけ
- ウ．問題管理へ引き上げ、根本原因分析と恒久対策を行う
- エ．SLAを削除する

答え・解説

正答：ウ

ア：傾向分析ができなくなる。

イ：原因への対処にならない。

ウ：反復障害は問題として管理することで再発を抑える。

エ：サービス目標とは別の問題である。

総合解説：監査では傾向分析や重大インシデントレビューから問題登録へつながる基準を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0080

運用・サービス監査＞インシデント・問題・変更・構成管理 | 難易度：応用

変更管理と構成管理の連携として最も適切なものはどれか。

- ア．変更後も構成情報を更新しない
- イ．構成管理者が無承認で本番変更する
- ウ．変更記録と構成品目を関連付けない
- エ．承認済み変更を実施した後、影響を受けた構成品目の状態・版を更新する

答え・解説

正答：エ

ア：CMDBが陳腐化する。

イ：変更統制を迂回する。

ウ：影響・履歴を追跡できない。

エ：変更と構成情報を同期させることで実態を正しく把握できる。

総合解説：監査では変更チケットと対象CI、リリース版、実装結果が関連付けられているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0081

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：基礎

SLAに可用率の目標値だけがあり、測定時間帯・除外条件・測定元が定義されていない。監査上の最も適切な指摘はどれか。

- ア．達成可否を一貫して判定できないため、測定条件と責任を明確にすべきである
- イ．目標値があるので測定条件がなくてもSLAとして十分である
- ウ．可用率は顧客に関係しないためSLAから削除すべきである
- エ．測定元はサービス提供者が毎回自由に変更してよい

答え・解説

正答：ア

ア：対象時間、計画停止、測定元などが曖昧だと同じ実績でも達成判定が変わり得る。

イ：目標値だけでは客観的な測定・報告ができない。

ウ：可用率は代表的なサービスレベル指標になり得る。

エ：測定元を任意変更すると比較可能性と信頼性が失われる。

総合解説：SLAの指標は目標値だけでなく、測定対象、時間帯、除外条件、計算式、データ源、責任を明確にする必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0082

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：基礎

サービスレベル管理の活動として最も適切なものはどれか。

- ア．SLAを作成後は測定しない
- イ．SLA目標に対する実績を定期的に監視・レビューし、未達時の改善機会を特定する
- ウ．未達を隠して報告しない
- エ．顧客要求の変化を考慮しない

答え・解説

正答：イ

ア：達成状況を把握できない。

イ：合意して終わりではなく継続的に管理する。

ウ：改善と説明責任を損なう。

エ：SLA自体も見直しが必要である。

総合解説：監査では測定、報告、レビュー、改善、SLA改定が継続的に行われているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0083

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：基礎

月間総サービス時間720時間のうち、計画外停止が3時間だった。単純な利用率はいくらか。

- ア．99.17%（停止6時間相当として計算）
- イ．99.72%（停止2時間相当として計算）
- ウ．約99.58%（ $(720-3) \div 720 \times 100$ ）
- エ．100%（停止時間を無視）

答え・解説

正答：ウ

ア：6時間停止に相当する値である。

イ：2時間停止に近い値である。

ウ：利用率= $(720-3) \div 720 \times 100$ 99.583%である。

エ：停止があるため100%ではない。

総合解説：利用率の算定では、SLA上のサービス時間や計画停止をどう扱うかも定義しておく必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0084

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：標準

MTTRを短縮することによる主な効果はどれか。

- ア．障害発生頻度が必ずゼロになる
- イ．容量不足が必ず解消する
- ウ．SLAが不要になる
- エ．障害発生後の平均復旧時間が短くなり、可用性向上に寄与する

答え・解説

正答：エ

ア：MTTRは復旧時間の指標である。

イ：キャパシティとは別である。

ウ：サービス目標は引き続き必要である。

エ：復旧時間短縮は停止時間を減らす。

総合解説：監査ではMTBF、MTTR、停止時間などを組み合わせ、可用性改善が管理されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0085

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：標準

キャパシティ管理の主な目的はどれか。

- ア．現在と将来の需要に対して必要な性能・資源を適切なコストで確保すること
- イ．常に最大容量を無制限に確保する
- ウ．性能問題が起きてからだけ対応する
- エ．事業計画を考慮しない

答え・解説

正答：ア

ア：需要予測と資源計画を結び付ける。

イ：過剰コストになる。

ウ：予測的管理が必要である。

エ：需要変化を予測できない。

総合解説：監査では利用率、トレンド、需要予測、閾値、増強リードタイムを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0086

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：標準

CPU利用率が平均40%でもピーク時に99%となり応答遅延が発生している。最も適切な評価はどれか。

- ア．平均40%なので容量問題は絶対はない
- イ．平均値だけでは不十分で、ピーク特性とサービス応答時間を含めてキャパシティを評価する
- ウ．CPU以外の指標は不要である
- エ．応答時間はSLAと無関係である

答え・解説

正答：イ

ア：ピークを無視している。

イ：サービス品質はピーク負荷で悪化することがある。

ウ：メモリ、I/O、待ち時間等も関係する。

エ：代表的なサービスレベル指標になり得る。

総合解説：監査では平均・最大・パーセンタイル、業務繁忙期、将来需要を組み合わせで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0087

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：標準

SLAのサービス指標を選定する際、監査人が最も重視すべき条件はどれか。

- ア．提供者が測りやすいが顧客価値と無関係な指標だけ
- イ．定義が毎月変わる指標
- ウ．顧客価値と対応し、測定方法・対象時間・データ源が明確な指標
- エ．測定不能な『最高品質』という表現だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：SLAの有用性が低い。

イ：比較・評価ができない。

ウ：測定可能で顧客に意味のある指標が必要である。

エ：客観的判定ができない。

総合解説：監査では可用率、応答時間、復旧時間等の定義、除外条件、測定源が明確かを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0088

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：標準

顧客SLAと外部供給者の契約目標が不整合な場合の主なリスクはどれか。

- ア．顧客SLAが自動的に無効になる
- イ．供給者管理が不要になる
- ウ．必ずコストがゼロになる
- エ．供給者が契約を満たしていても、自社が顧客SLAを達成できない可能性がある

答え・解説

正答：エ

ア：契約関係は別である。

イ：むしろ整合管理が重要である。

ウ：関係しない。

エ：サプライヤ目標は顧客への約束を支えられる水準にする必要がある。

総合解説：監査では下位契約の目標・測定・違約・連絡条件が顧客SLAを支えているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0089

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：応用

サービス可用性向上の施策を監査する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．重要サービスの単一障害点、復旧時間、冗長化、保守性をリスクとコストの両面で評価する
- イ．全構成を二重化すれば十分とする
- ウ．障害履歴を見ない
- エ．可用性目標を設定しない

答え・解説

正答：ア

ア：可用性向上は過剰投資ではなく事業要求に応じて設計する。

イ：運用・設計・復旧手順も重要である。

ウ：改善優先度の重要情報である。

エ：施策の妥当性を評価できない。

総合解説：監査ではSPOF、冗長化、フェイルオーバー、復旧訓練、費用対効果を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0090

運用・サービス監査 > SLA・SLM・可用性・キャパシティ | 難易度：応用

SLMでサービスレベル目標が継続的に未達となっている。最も適切な対応はどれか。

- ア．報告値を変更して達成扱いにする
- イ．原因を分析し、容量・運用・供給者等の改善策と必要なSLA見直しを顧客と協議する
- ウ．顧客へ報告しない
- エ．原因に関係なく設備を最大増強する

答え・解説

正答：イ

ア：データの信頼性を損なう。

イ：未達を放置せず、改善と合意内容の妥当性を継続確認する。

ウ：説明責任を果たせない。

エ：費用対効果と原因分析が必要である。

総合解説：監査では未達の分析、改善責任、期限、顧客コミュニケーション、再発状況を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0091

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：基礎

業務プロセスをBPO事業者へ委託した場合、委託元の監査で最も重要な基本認識はどれか。

- ア．契約締結後は委託元の管理責任は消滅する
- イ．委託先が大企業なら監査や評価は不要である
- ウ．業務を委託しても、委託元には委託業務を適切に管理する責任が残る
- エ．委託業務の手順は委託先だけが把握すればよい

答え・解説

正答：ウ

ア：委託後も契約履行・リスク・統制状況を管理する必要がある。

イ：企業規模だけで統制の有効性は保証されない。

ウ：外部委託は実作業の移管であり、委託元の管理責任や説明責任まで自動的に移転するものではない。

エ：委託元も責任分界と重要統制を把握する必要がある。

総合解説：監査では、委託元が業務目的・リスク・責任分界を把握し、委託先の履行状況を継続管理しているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0092

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：基礎

重要業務の委託先を選定する際、最も適切な事前評価はどれか。

- ア．見積価格が最安であれば他の評価は不要である
- イ．営業担当者の印象だけで決める
- ウ．契約後に初めて業務遂行能力を確認する
- エ．業務遂行能力、財務健全性、情報セキュリティ、事業継続、法令順守などを要求仕様に照らし評価する

答え・解説

正答：エ

ア：重要業務では品質・継続性・セキュリティ等も重要である。

イ：客観的な選定基準と証拠が必要である。

ウ：選定前のデューデリジェンスが必要である。

エ：外部サービスの選定では価格だけでなく、要求事項を満たす能力と継続的な履行可能性を総合評価する必要がある。

総合解説：監査では外部サービス選定基準、比較結果、承認記録、重要リスクの評価が残されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0093

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：基礎

外部委託契約に盛り込む事項として、最も不十分なものはどれか。

- ア．委託業務名と料金だけを定め、責任分界・秘密保持・再委託・監査・事故連絡を定めない
- イ．委託範囲と責任分担を明確にする
- ウ．再委託の可否や手続を定める
- エ．監査結果やインシデントの取扱いを定める

答え・解説

正答：ア

ア：重要な委託では業務範囲、責任分担、SLA、秘密保持、再委託、監査、事故対応などを明確にする必要がある。

イ：契約上の基本的な統制である。

ウ：サプライチェーン管理上重要である。

エ：委託元の監督に必要な条件である。

総合解説：監査では契約内容が業務の実態とリスクに対応しているか、変更時に契約も見直されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0094

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：標準

委託先が重要業務を再委託する場合、委託元の統制として最も適切なものはどれか。

- ア．委託先が選んだ再委託先は無条件で認める
- イ．再委託条件を契約で定め、必要な事前承認と再委託先への同等統制要求を行う
- ウ．再委託先には秘密保持義務を求めない
- エ．再委託先の変更を委託元へ知らせない

答え・解説

正答：イ

ア：委託元がリスクを把握できなくなる。

イ：再委託によってリスクがさらに外部へ連鎖するため、委託元が把握・承認できる仕組みが必要である。

ウ：情報漏えいリスクが高まる。

エ：責任分界とリスク評価が不十分になる。

総合解説：監査では再委託先の一覧、承認記録、同等義務の契約化、変更通知、事故時の責任分担を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0095

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：標準

BPOの運用品質を継続的に監督する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．契約締結時の評価だけで契約終了まで管理しない
- イ．委託先の自己申告だけを無検証で採用する
- ウ．KPI・SLA・例外件数・苦情・統制不備を定期レビューし、改善事項を追跡する
- エ．KPIが未達でも理由を確認しない

答え・解説

正答：ウ

ア：実態の変化や品質低下を把握できない。

イ：客観的な証跡や独立した確認が必要である。

ウ：契約後も委託業務が要求どおり提供されているかを継続監視する必要がある。

エ：継続的改善につながらない。

総合解説：監査では定期報告、サービスレビュー、是正計画、期限、再発状況まで追跡しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0096

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：標準

一社の委託先に複数の重要業務を集中させている場合、監査上特に重視すべきリスクはどれか。

- ア．委託先の担当者数が増えること自体
- イ．契約書のページ数が増えること
- ウ．委託元の社名が知られること
- エ．委託先の障害・経営悪化が複数業務へ同時に波及する集中リスク

答え・解説

正答：エ

ア：人数増加そのものが主要リスクではない。

イ：集中リスクとは無関係である。

ウ：外部委託集中の直接的論点ではない。

エ：単一事業者への依存は共通障害点となり、事業継続上の影響が大きくなる可能性がある。

総合解説：監査では重要業務の依存関係、代替手段、退出計画、財務状況、災害時の同時影響を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0097

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：標準

外部委託の対象業務が契約締結後に大きく変更された。最も適切な対応はどれか。

- ア：変更内容が契約・SLA・責任分界に与える影響を評価し、必要に応じ契約を改定する
- イ：契約は初回締結後に変更してはならない
- ウ：口頭合意だけで変更を続ける
- エ：業務変更を監査対象外とする

答え・解説

正答：ア

ア：委託業務の実態と契約内容が乖離しないよう、変更時に契約を再検討する必要がある。

イ：実態変化に合わせて見直す必要がある。

ウ：責任・料金・統制要件が曖昧になる。

エ：リスクや責任分担へ大きく影響する。

総合解説：監査ではスコープ変更の承認、契約改定、SLA・価格・セキュリティ・監査条件の整合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0098

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：標準

委託先の要員が退職した場合のアクセス管理として最も適切なものはどれか。

- ア：委託先が退職を把握していれば委託元の処理は不要である
- イ：委託元システムへのアカウント・物理アクセスを速やかに無効化し、処理証跡を残す
- ウ：契約終了までアカウントを残す
- エ：共有IDに切り替えて利用継続させる

答え・解説

正答：イ

ア：委託元資産へのアクセス停止を確認する必要がある。

イ：外部要員も利用者ライフサイクル管理の対象であり、不要権限を残してはならない。

ウ：不正利用リスクが高まる。

エ：追跡性がさらに低下する。

総合解説：監査では入場・異動・退職情報とアカウントを突合し、委託先要員の権限が適時に更新されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0099

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：応用

委託先との契約終了に備えた退出計画として最も適切なものはどれか。

- ア．契約終了時に初めて移行方法を考える
- イ．委託先へデータを永久保有させる
- ウ．データ返却・削除、業務引継ぎ、知識移転、代替先への移行、アクセス停止を事前に定める
- エ．知識移転を行わず担当者の記憶に依存する

答え・解説

正答：ウ

ア：移行不能やデータ消失のリスクが高い。

イ：契約・法令・秘密保持上の問題が生じる可能性がある。

ウ：外部委託は終了時にも事業継続・データ保護・権限剥奪のリスクがあるため、出口管理が必要である。

エ：継続運用が困難になる。

総合解説：監査では契約終了条件、データポータビリティ、削除証明、資産返却、アカウント無効化、引継ぎ期間を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0100

外部サービス・クラウド監査 > アウトソーシング・BPO・委託先管理 | 難易度：応用

委託先監査で第三者保証報告書を利用する場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．報告書が存在すれば追加評価は一切不要である
- イ．報告書の結論だけ読み対象範囲を確認しない
- ウ．例外事項は委託先の問題なので無視する
- エ．対象期間・対象サービス・統制範囲・例外事項が自社の監査目的に適合するか評価して利用する

答え・解説

正答：エ

ア：対象外統制や期間差がある可能性がある。

イ：監査目的との適合性を判断できない。

ウ：自社サービスへ与える影響を評価する必要がある。

エ：第三者報告書は有力な証拠となり得るが、自社が必要とする範囲をすべてカバーするとは限らない。

総合解説：監査では保証範囲、基準日、利用者側統制、サブサービス組織、例外と是正状況を踏まえて追加手続の要否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0101

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：基礎

クラウドサービスの責任分界を監査する際、最も適切な基本認識はどれか。

ア．クラウド事業者と利用者で責任が分担され、利用形態に応じて利用者側の設定・ID・データ管理責任が残る

イ．SaaSでは利用者側に一切の責任がない

ウ．IaaSでは事業者が利用者OSの全設定を管理する

エ．責任分界は契約やサービス仕様を確認しなくても分かる

答え・解説

正答：ア

ア：クラウド利用は全責任を事業者へ移すものではなく、サービスモデルごとに責任分界が異なる。

イ：利用者・権限・データ・端末等の責任が残る。

ウ：通常、ゲストOS等は利用者責任となる。

エ：具体的なサービス条件を確認する必要がある。

総合解説：監査ではサービスモデル、契約、管理画面、運用手順を基に責任分界を明確化し、統制の空白がないか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0102

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：基礎

SaaSの管理者設定を監査する際、最も重要な確認はどれか。

ア．サービスがSaaSなら管理者権限は監査不要である

イ．管理者権限が限定され、MFA・設定変更ログ・定期レビューが有効になっているか

ウ．全利用者へ管理者権限を付与する

エ．設定変更履歴を保存しない

答え・解説

正答：イ

ア：利用者側の設定ミスが重大事故につながり得る。

イ：SaaSでは利用者側がテナント設定や権限を管理することが多く、管理者権限の統制が重要である。

ウ：最小権限に反する。

エ：不正・誤設定の追跡が困難になる。

総合解説：監査では管理者ロール、MFA、SSO、設定変更、監査ログ、外部共有、アプリ連携などを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0103

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：基礎

クラウド利用時のデータ所在を監査する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．クラウド上のデータには所在という概念がない
- イ．データ所在は料金だけに影響する
- ウ．法令・契約・顧客要件や災害リスクに関係するため、保存・処理地域を把握する必要がある
- エ．事業者名だけ分かれば保存地域は不要である

答え・解説

正答：ウ

ア：物理的・法的な処理場所は存在する。

イ：法令・契約・BCP等にも影響する。

ウ：データの保存・処理場所はプライバシー、秘密保持、規制、事業継続へ影響する。

エ：サービス構成により地域が異なる。

総合解説：監査ではリージョン設定、バックアップ先、サポートアクセス、越境移転条件、変更通知などを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0104

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：標準

クラウドの監査ログに関する統制として最も適切なものはどれか。

- ア．ログを既定設定のまま内容を確認しない
- イ．管理者がログを自由に削除できる
- ウ．保存期間を業務・法令要件と無関係に最短化する
- エ．必要な操作ログを有効化し、改ざん防止・適切な保存期間・監視・検索可能性を確保する

答え・解説

正答：エ

ア：必要なイベントが記録されない場合がある。

イ：不正の隠蔽につながる。

ウ：調査時に必要な証拠が失われる可能性がある。

エ：クラウドでは管理APIや設定変更のログが事故調査と監査証拠に重要である。

総合解説：監査では対象イベント、保存先、権限、時刻同期、アラート、SIEM連携、保持期間を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0105

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：標準

クラウド事業者が基盤の冗長化を行っている場合、利用者側バックアップについて最も適切な考え方はどれか。

- ア：冗長化とバックアップは目的が異なるため、誤削除・ランサムウェア・長期保管等の要件に応じ利用者側でも対策を設計する
- イ：冗長化されていればバックアップは常に不要である
- ウ：バックアップはクラウド事業者が必ず無期限保存する
- エ：復元テストは不要である

答え・解説

正答：ア

ア：可用性のための冗長化だけでは、論理削除やデータ破損からの復元要件を満たさないことがある。

イ：障害種類によっては冗長側にも破損が複製される。

ウ：サービス仕様や契約により異なる。

エ：取得できても復元不能では意味がない。

総合解説：監査では責任分界、世代、隔離、暗号化、保持期間、復元テスト、リージョン障害への耐性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0106

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：標準

シャドーITとなっている未承認SaaSを監査で発見した。主なリスクとして最も適切なものはどれか。

- ア：SaaS利用料が必ず高額になることだけ
- イ：組織のセキュリティ・契約・データ管理・退職者アクセス統制の外で情報が処理されること
- ウ：利用者の作業速度が必ず低下する
- エ：クラウドであること自体が違法である

答え・解説

正答：イ

ア：主要リスクは統制外でのデータ処理である。

イ：未承認サービスは統一された評価・契約・権限・ログ・データ削除の管理から外れる可能性がある。

ウ：直接的な一般則ではない。

エ：承認・法令・契約等に応じて適法利用できる。

総合解説：監査ではSaaS利用の申請・評価・台帳化・SSO連携・退職処理・データ分類・退出手続を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0107

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：標準

クラウド上の機密データ暗号化を監査する際、最も適切な確認はどれか。

- ア．暗号化方式の名称だけ確認する
- イ．全管理者が暗号鍵へ自由にアクセスできる
- ウ．保存時・通信時の暗号化に加え、鍵の生成・保管・ローテーション・アクセス権を確認する
- エ．鍵をデータと同じ場所へ無管理で保存する

答え・解説

正答：ウ

ア：鍵管理や適用範囲が不明では統制評価が不十分である。

イ：最小権限と職務分掌が必要である。

ウ：暗号化の有効性は鍵管理に大きく依存する。

エ：侵害時に同時取得されるリスクがある。

総合解説：監査では暗号化対象、鍵管理サービス、権限、監査ログ、ローテーション、バックアップ、鍵喪失時の影響を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0108

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：標準

クラウドサービスの第三者保証報告や認証を評価する際、最も適切な対応はどれか。

- ア．認証マークがあれば設定監査は一切不要である
- イ．有効期限や対象サービスを確認しない
- ウ．例外事項を読まず合格と判断する
- エ．保証対象、期間、リージョン・サービス、除外事項、自社側の補完統制を確認する

答え・解説

正答：エ

ア：利用者側の設定ミス等は別途評価が必要である。

イ：適用外の可能性がある。

ウ：重大な統制不備が記載されている場合がある。

エ：認証・保証の取得は有用な情報だが、自社利用範囲の統制を完全に保証するものではない。

総合解説：監査では第三者保証を一証拠として利用し、自社の責任分界・利用設定・契約条件と組み合わせで判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0109

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：応用

クラウドサービス終了時のデータポータビリティを監査する際、最も適切な確認はどれか。

ア：必要データを利用可能な形式で取り出せること、移行手順、削除証明、退出期限が定められていること

イ：契約終了後にデータ形式を初めて確認する

ウ：データ削除は事業者へ任せ証拠を求めない

エ：バックアップ上の残存データは一切考慮しない

答え・解説

正答：ア

ア：サービス終了時にデータを回収できなければ事業継続やロックインの問題が生じる。

イ：移行不能リスクが高い。

ウ：秘密保持や残存リスクを確認できない。

エ：削除条件や保持期間を確認する必要がある。

総合解説：監査では移行可能性を契約前から評価し、エクスポート、削除、アカウント停止、鍵廃棄、監査ログ保全まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0110

外部サービス・クラウド監査 > クラウドサービス・SaaS等の統制 | 難易度：応用

SaaSで外部ユーザーとの共有設定が部門ごとに自由化されている。最も適切な監査対応はどれか。

ア：外部共有機能を利用しているだけで直ちに不適切とする

イ：情報分類に応じた共有ルール、既定値、承認、期限、定期棚卸を確認する

ウ：共有リンクは期限なしで公開設定にする

エ：退職者が作成した共有を棚卸しない

答え・解説

正答：イ

ア：業務要件と統制の両方を評価する。

イ：SaaSの外部共有は利便性が高い一方、設定次第で情報漏えいリスクが高まる。

ウ：不特定アクセスのリスクが高い。

エ：不要共有が残存する。

総合解説：監査では公開範囲、ゲスト管理、DLP、リンク期限、所有者、定期レビュー、ログ監視を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0111

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：基礎

SLAで責任分界を明確にする主な目的はどれか。

- ア．責任を全てサービス提供者へ移すため
- イ．SLAを技術部門だけの内部資料にするため
- ウ．障害・性能・セキュリティ・継続性に関して、誰が何を実施・報告するかを合意するため
- エ．障害時の連絡を不要にするため

答え・解説

正答：ウ

ア：利用者側の責任も残る。

イ：顧客と提供者の合意として利用する。

ウ：責任分界が曖昧だと対応漏れや認識相違が生じる。

エ：むしろ連絡条件を明確にする。

総合解説：監査ではサービス内容、責任者、測定方法、報告、障害対応、継続性、例外条件が明確かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0112

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：基礎

30日を1か月とし、SLAの月間可用性目標が99.9%である。許容される停止時間の上限に最も近いものはどれか。

- ア．約4分（99.99%級の停止時間と混同）
- イ．約7時間12分（99%級と混同）
- ウ．約43時間（0.1%を時間換算し誤る）
- エ．約43分（43,200分×0.1%）

答え・解説

正答：エ

ア：99.99%程度の停止時間に近い。

イ：99%の停止時間に相当する。

ウ：99.9%から大きく外れる。

エ：30日×24時間×60分=43,200分であり、その0.1%は43.2分である。

総合解説：SLAの可用性監査では計算式だけでなく、計画停止の扱い、測定地点、対象時間帯、除外条件も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0113

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：基礎

SLAの可用性実績を監査する際、最も重要な確認はどれか。

- ア．測定対象、測定地点、計算式、除外時間、データ取得元が契約と一致しているか
- イ．提供者が報告した数値だけを無検証で採用する
- ウ．停止時間の定義を契約に書かない
- エ．計画停止を常に隠して計算する

答え・解説

正答：ア

ア：同じ99.9%でも測定定義が異なれば意味が変わるため、測定ルールの明確化が必要である。

イ：測定ロジックや元データを確認する必要がある。

ウ：解釈差が生じる。

エ：契約上の取扱いに従う必要がある。

総合解説：監査では監視データから月次報告へ至る集計ロジックを再計算し、契約定義との整合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0114

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：標準

事業部門が要求するRTOが4時間なのに、クラウド事業者との契約では復旧目標が24時間となっている。最も適切な監査指摘はどれか。

- ア．契約の方が長いので事業部門のRTOを自動的に24時間へ変更する
- イ．事業継続要求とサービス契約の復旧条件が整合していない
- ウ．クラウドなのでRTOは不要である
- エ．SLAとBCPは無関係である

答え・解説

正答：イ

ア：事業影響に基づく要求を再評価せず変更してはならない。

イ：外部サービスの継続性は事業側のRTO・RPOを満たすように設計・契約する必要がある。

ウ：障害・災害時の復旧目標は必要である。

エ：サービス継続性はBCPの実現に係る。

総合解説：監査ではBIA→BCP→ITサービス継続計画→外部サービスSLAが一貫しているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0115

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：標準

サービス障害時の通知条件をSLAへ定める際、最も適切な内容はどれか。

- ア．障害の全容判明まで一切通知しない
- イ．通知先を担当者一人だけに固定し代替連絡先を設けない
- ウ．重大度、通知期限、連絡先、更新頻度、復旧報告の内容を定める
- エ．重大度によらず年1回まとめて通知する

答え・解説

正答：ウ

ア：初動が遅れる。

イ：不在時に連絡不能となる。

ウ：初動・意思決定に必要な情報が適時に届くよう具体的な通知条件を合意する必要がある。

エ：重大障害への対応に不十分である。

総合解説：監査では通知実績、時刻、内容、エスカレーション、更新連絡がSLAどおりか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0116

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：標準

サービスクレジットがSLA未達時に自動適用される契約で、監査上最も重要な追加確認はどれか。

- ア．クレジットがあればサービス改善は不要である
- イ．未達を利用者へ報告しない
- ウ．SLA目標を実績に合わせて毎回引き下げる
- エ．金銭補償だけで終わらず、原因分析と再発防止が実施されているか

答え・解説

正答：エ

ア：継続的未達を放置することになる。

イ：説明責任を果たせない。

ウ：原因と事業要求を評価せず変更するのは不適切である。

エ：サービスクレジットは補償の手段であり、継続的な未達リスクを解消するものではない。

総合解説：監査では未達の傾向、原因、改善計画、期限、サービスレビュー、契約見直しの妥当性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0117

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：標準

外部サービスを用いたサービス継続計画の訓練で最も適切なものはどれか。

- ア．サービス提供者も参加し、契約した連絡・復旧・データ回復手順を実際に検証する
- イ．委託元だけで机上確認し提供者の対応能力を確認しない
- ウ．訓練結果を契約や計画へ反映しない
- エ．一度成功すれば重大変更後も再試験しない

答え・解説

正答：ア

ア：外部サービス依存があるBCPでは、提供者の体制や手順も含めて実行可能性を検証する必要がある。
イ：契約上の連携が実際に機能するか分らない。
ウ：改善につながらない。
エ：環境変更後は再確認が必要である。
総合解説：IPAシラバスはサービス継続計画の定期試験と重大変更後の再試験を求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0118

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：標準

マルチリージョン構成を採用しているサービスの継続性監査で、最も適切な着眼点はどれか。

- ア．リージョンが二つあれば継続性は自動的に保証される
- イ．リージョン間で共通依存するID・DNS・ネットワーク・運用要員等が単一障害点になっていないか
- ウ．切替手順を試験しない
- エ．データ複製遅延をRPOと無関係とする

答え・解説

正答：イ

ア：共通障害点や切替失敗があり得る。
イ：見かけ上冗長でも共通依存先が停止すれば同時障害になる可能性がある。
ウ：実際の復旧能力を確認できない。
エ：復旧時点へ直接影響する。
総合解説：監査では構成図、依存サービス、フェイルオーバー、データ整合性、運用体制を確認し、想定災害に対する独立性を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0119

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：応用

SLAの免責条項を監査する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．免責条項は読まず標準約款をそのまま受け入れる
- イ．不可抗力と書かれていれば全障害を免責とみなす
- ウ．免責条件が具体的で、事業上受容可能なリスクかを契約締結前に評価する
- エ．免責されたリスクはBCPでも考慮しない

答え・解説

正答：ウ

ア：リスク受容の根拠が不明確になる。

イ：条件や法的・契約上の範囲を確認する必要がある。

ウ：免責が広すぎると重要障害でもSLA保証が機能しない可能性がある。

エ：事業への影響は残るため代替策が必要である。

総合解説：監査では免責範囲、責任上限、保険、代替策、リスク受容権限を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0120

外部サービス・クラウド監査 > SLA・責任分界・サービス継続性 | 難易度：応用

事業内容の変更によりサービス重要度が大幅に上がった。SLA管理で最も適切な対応はどれか。

- ア．既存SLAを契約終了まで一切見直さない
- イ．サービス重要度だけ変更し監視項目は変えない
- ウ．提供者の都合だけで目標を決める
- エ．新しい事業要件に基づき可用性・性能・RTO・RPO・サポート条件を再評価し、必要ならSLAを変更する

答え・解説

正答：エ

ア：事業要求との乖離が拡大する。

イ：必要な目標と監視を再設計する。

ウ：顧客の事業要求との合意が必要である。

エ：SLAは固定ではなく、業務要求の変化に応じて維持・改善する必要がある。

総合解説：監査では事業変更・利用量・インシデント実績・技術変更がSLAレビューへ反映されているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0121

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：基礎

BCMにおけるBIAの主な目的はどれか。

- ア．業務停止が時間経過とともに与える影響を分析し、重要業務と復旧優先度・目標を決める
- イ．全システムを同じ優先度で復旧するため
- ウ．災害の発生確率だけを計算するため
- エ．バックアップ製品を選ぶためだけ

答え・解説

正答：ア

ア：事業影響度分析はBCPの優先順位と継続要求を定める基礎となる。

イ：重要度に応じた優先順位付けが目的である。

ウ：業務停止による影響も分析する。

エ：BCP全体の継続要求を定める。

総合解説：監査では重要業務、許容停止時間、依存資源、最低必要レベル、復旧優先順位がBIAに基づいているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0122

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：基礎

BIAの結果、「災害発生から6時間以内に重要業務を再開する」と定めた。この6時間が表す指標はどれか。

- ア．RPO
- イ．RTO
- ウ．MTBF
- エ．バックアップ取得間隔

答え・解説

正答：イ

ア：RPOは復旧時点の目標であり、許容できるデータ損失量に関係する。

イ：RTOは停止から目標状態まで復旧させるための目標時間である。

ウ：MTBFは平均故障間動作時間である。

エ：バックアップ取得間隔はRPOに影響するが、RTOそのものではない。

総合解説：RTOはBIAで得た事業継続要求をDR・ITサービス継続設計へ落とし込む指標であり、復旧方式はこの時間内で実現できる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0123

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：基礎

災害時に「直近30分間の更新データ消失までは許容する」と定めた。この30分が表す指標はどれか。

- ア．RTO
- イ．可用性
- ウ．RPO
- エ．MTTR

答え・解説

正答：ウ

ア：RTOは復旧に要する目標時間であり、許容データ損失とは異なる。

イ：可用性はサービスが利用可能な割合等を表す。

ウ：RPOは復旧時にどの時点までのデータを回復するかという目標で、許容データ損失を時間軸で表す。

エ：MTTRは平均修復時間であり、復旧時点の目標ではない。

総合解説：RPOはデータ損失の許容範囲を示す。監査では、バックアップやレプリケーション方式がこのRPOを実現できるか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0124

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：標準

BCPとDR計画の関係として最も適切なものはどれか。

- ア．BCPとDRは完全に同じ意味である
- イ．DRがあれば業務部門の代替手順は不要である
- ウ．BCPはIT部門だけで策定する
- エ．BCPは重要事業の継続・復旧全体を扱い、DRは主としてIT基盤・システムの災害復旧を具体化する

答え・解説

正答：エ

ア：BCPは人・拠点・業務・取引先等も含む。

イ：システム以外の継続策も必要である。

ウ：経営・業務部門を含む全社的取組である。

エ：DRはBCPを支える構成要素の一つである。

総合解説：監査では経営のBCP、業務継続手順、ITサービス継続計画、DR構成の対応関係を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0125

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：標準

BIAで業務の最大許容停止時間が8時間とされた。DRのRTOを12時間と設定した場合、最も適切な評価はどれか。

- ア．事業側の許容停止時間を超えるため、DR目標が事業継続要求を満たしていない
- イ．RTOは許容停止時間より長いほど安全である
- ウ．BIAとDRの目標は無関係である
- エ．RTOは技術部門だけで自由に決めてよい

答え・解説

正答：ア

ア：復旧目標は事業が許容できる停止時間内に設定する必要がある。

イ：逆であり、復旧が遅すぎる。

ウ：BIAが復旧要求の基礎となる。

エ：事業要求とコストを合意して決める。

総合解説：監査では重要業務ごとの許容停止時間・RTO・RPO・復旧優先順位が整合しているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0126

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：標準

BCPで復旧優先順位を定める際、最も適切な基準はどれか。

- ア．システム構築費が高い順
- イ．人命・法令・顧客・財務・社会的影響と、他業務への依存関係を踏まえた事業影響
- ウ．担当者が多い順
- エ．復旧しやすい順

答え・解説

正答：イ

ア：費用だけでは事業重要性を表せない。

イ：復旧順序はシステムの大きさではなく事業影響と依存関係に基づく。

ウ：人員数だけで優先度は決まらない。

エ：容易なものだけを優先すると重要業務が遅れる。

総合解説：監査ではBIAの結果が重要業務・依存サービス・復旧順序・資源配分へ反映されているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0127

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：標準

ホットサイトの特徴として最も適切なものはどれか。

- ア．設備がほぼなく復旧に長時間を要する
- イ．バックアップデータを一切必要としない
- ウ．必要な設備やシステムを待機させ、比較的短時間で切替可能だがコストが高い
- エ．必ず本番拠点と同じ災害で停止する

答え・解説

正答：ウ

ア：コールドサイトの特徴に近い。

イ：データ同期・復旧が必要である。

ウ：ホットサイトは復旧時間を短縮しやすい一方、設備・同期・運用の維持費が大きい。

エ：地理的・インフラ的な独立性を設計する。

総合解説：監査ではRTO/RPO、コスト、距離、通信、要員、共通災害リスクから待機方式の妥当性を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0128

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：標準

BCPを見直す契機として最も適切なものはどれか。

- ア．一度承認したBCPは永久に変更しない
- イ．監査で問題が出ても見直さない
- ウ．組織再編はBCPに影響しないとみなす
- エ．組織・業務・システム・拠点・委託先の重大変更や、訓練・災害対応で課題が判明したとき

答え・解説

正答：エ

ア：実態と乖離する。

イ：改善機会を失う。

ウ：連絡・責任・業務依存が変化する。

エ：BCPは環境変化に応じて維持・改善する必要がある。

総合解説：監査では定期レビューに加え、重大変更や訓練後の改善がBCPへ反映されているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0129

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：応用

サプライヤーが停止すると自社の重要業務も停止する場合、BCP監査で最も適切な確認はどれか。

- ア．重要サプライヤーの依存度、代替調達、在庫・代替業務、連絡・復旧情報をBCPへ組み込んでいるか
- イ．サプライヤーのBCPは自社に無関係とする
- ウ．契約先が一社でも代替策を検討しない
- エ．復旧情報の共有方法を決めない

答え・解説

正答：ア

ア：事業継続は自社内だけでなく外部依存関係も考慮する必要がある。

イ：外部依存は事業停止要因となる。

ウ：集中リスクがある。

エ：災害時の意思決定が遅れる。

総合解説：監査では重要な外部依存先をBIAで特定し、代替策・契約・情報共有・共同訓練を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0130

事業継続・システムライフサイクル > BCM・BCP・DR | 難易度：応用

BCPの発動基準として最も適切なものはどれか。

- ア．災害時は担当者の感覚だけで決める
- イ．通常の障害管理では対処困難な影響規模・停止時間・拠点被害等を基に、発動権限者と判断条件を定める
- ウ．BCPは必ず全システム停止後にしか発動できない
- エ．発動責任者が不在の場合の代行者を決めない

答え・解説

正答：イ

ア：組織的な意思決定ができない。

イ：発動基準が曖昧だと重要な初動が遅れる。

ウ：予兆・部分停止でも発動判断が必要な場合がある。

エ：意思決定が停止する。

総合解説：監査では発動条件、権限者、代行順位、連絡網、初動タスク、解除基準が明確かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0131

事業継続・システムライフサイクル>障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：基礎

バックアップ統制を災害復旧の観点から監査する際、最も重要な追加確認はどれか。

- ア．バックアップログがあれば復元テストは不要である
- イ．復元時間はRTOと無関係である
- ウ．実際に復元テストを行い、要求するRTO・RPO内でデータを回復できるか確認する
- エ．バックアップは本番と同じ障害点だけに保存する

答え・解説

正答：ウ

ア：媒体破損や手順不備を検出できない。

イ：復旧目標へ直接影響する。

ウ：バックアップ取得成功だけでは、災害時に利用可能かを保証できない。

エ：共通障害で同時喪失する可能性がある。

総合解説：監査では取得、保管、隔離、復元、整合性確認、目標時間を一連で検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0132

事業継続・システムライフサイクル>障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：基礎

DRフェイルオーバー訓練で最も重要な確認はどれか。

- ア．インフラ担当者が画面を表示できれば終了する
- イ．業務部門は訓練に参加しない
- ウ．フェイルオーバー後のデータを確認しない
- エ．切替手順だけでなく、切替後に重要業務が正常に実行できることを業務部門も確認する

答え・解説

正答：エ

ア：業務機能・データ整合性の確認が必要である。

イ：復旧レベルを判断できない。

ウ：RPOや整合性を評価できない。

エ：技術的にサーバが起動しても業務として利用できなければ復旧とはいえない。

総合解説：監査では技術復旧、業務復旧、データ、性能、外部接続、利用者認証まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0133

事業継続・システムライフサイクル > 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：基礎

BCPの机上訓練の主な利点はどれか。

- ア．実システムを停止せず、意思決定・連絡・役割・手順の不備をシナリオで検証できる
- イ．実際の切替性能を完全に測定できる
- ウ．訓練準備が一切不要である
- エ．復旧設備の動作確認を自動的に完了できる

答え・解説

正答：ア

ア：机上訓練は低い業務影響で組織的な対応プロセスを確認できる。

イ：実動訓練ほど技術的実証はできない。

ウ：現実的なシナリオと評価基準が必要である。

エ：設備の実動確認は別途必要である。

総合解説：監査では机上・部分・総合・実動など目的に応じた訓練方法が選ばれているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0134

事業継続・システムライフサイクル > 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：標準

災害対応訓練で、BCP上の主要責任者が参加できない条件を加える主な狙いはどれか。

- ア．訓練を難しくすることだけが目的である
- イ．代行順位や権限委譲が実際に機能するかを確認する
- ウ．責任者が不在なら訓練を中止する
- エ．代行者には判断権限を与えない

答え・解説

正答：イ

ア：実際の可用性リスクを検証するためである。

イ：災害時には主要要員が不在・連絡不能となる可能性があるため、属人性を検証する必要がある。

ウ：代替体制こそ確認対象である。

エ：意思決定が停滞する。

総合解説：監査ではキーパーソン依存、代行権限、連絡先、スキル冗長化を訓練で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0135

事業継続・システムライフサイクル > 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：標準

災害復旧訓練後のレビューで最も重要な成果物はどれか。

- ア．参加者一覧だけ
- イ．成功した点だけを記録する
- ウ．目標と実績の差異、発見課題、原因、改善責任者、期限をまとめた改善計画
- エ．課題を口頭で共有し記録しない

答え・解説

正答：ウ

ア：改善につながる情報が不足する。

イ：問題点を隠すことになる。

ウ：訓練は実施すること自体ではなく、発見した弱点を改善することで価値が生まれる。

エ：追跡できない。

総合解説：監査では改善項目の完了までフォローし、BCP・DR手順・契約・教育へ反映されているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0136

事業継続・システムライフサイクル > 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：標準

災害時の緊急連絡網を監査する際、最も適切な確認はどれか。

- ア．年1回印刷するだけでテストしない
- イ．個人携帯番号を未管理で広範囲に配布する
- ウ．一つの通信手段だけに依存する
- エ．連絡先が最新で、複数の連絡手段と代替連絡先を持ち、定期テストされているか

答え・解説

正答：エ

ア：実際に連絡可能か分からない。

イ：個人情報管理にも配慮が必要である。

ウ：その手段の障害で連絡不能となる。

エ：通信障害や要員不在を想定した冗長な連絡手段が必要である。

総合解説：監査では更新責任者、テスト頻度、代替手段、外部関係者、個人情報の取扱いを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0137

事業継続・システムライフサイクル> 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：標準

大規模障害時の対外コミュニケーション計画で最も重要な統制はどれか。

- ア．顧客・規制当局・取引先・メディア等への報告責任者と承認経路、発信基準を定める
- イ．各担当者が自由にSNSへ投稿する
- ウ．事実が完全確定するまで必ず一切発信しない
- エ．技術部門だけで法令報告を判断する

答え・解説

正答：ア

ア：不正確・遅延した情報発信は法令・信用・顧客対応へ影響する。

イ：情報の不整合や機密漏えいにつながる。

ウ：速報が必要な場合がある。

エ：法務・経営・広報等との連携が必要である。

総合解説：監査では通知基準、テンプレート、承認、連絡先、更新頻度、記録を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0138

事業継続・システムライフサイクル> 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：標準

複数システムを災害復旧する順序として最も適切なものはどれか。

- ア．システム名の五十音順
- イ．BIAで定めた重要業務とシステム間依存関係に基づき、前提サービスから順に復旧する
- ウ．最も復旧しやすいシステムだけを優先する
- エ．アプリだけを復旧し共通基盤を考慮しない

答え・解説

正答：イ

ア：事業影響を反映しない。

イ：高優先業務でも認証・ネットワーク・データベース等の前提サービスが必要な場合がある。

ウ：重要業務が遅れる可能性がある。

エ：依存関係により利用不能となる。

総合解説：監査ではサービスマップや依存関係を用いて、復旧優先度と技術的前提が整合しているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0139

事業継続・システムライフサイクル > 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：応用

DRサイトへ切り替えた後、平常系へ戻す際の最も適切な管理はどれか。

- ア．復旧直後に無計画で本番拠点へ戻す
- イ．DR側で更新されたデータを無視する
- ウ．データ同期・業務影響・切戻し手順を確認し、承認された計画で段階的に切り戻す
- エ．切戻しはBCP・変更管理の対象外とする

答え・解説

正答：ウ

ア：再停止・データ損失のリスクがある。

イ：不整合が生じる。

ウ：災害復旧後の切戻しも重大変更であり、再障害やデータ不整合を防ぐ統制が必要である。

エ：重要な移行作業である。

総合解説：監査では安定化判定、データ同期、業務承認、ロールバック、関係者通知、実施後確認を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0140

事業継続・システムライフサイクル > 障害・災害・復旧・訓練 | 難易度：応用

BCP訓練が毎年「成功」と報告されているが、RTO実績を測定していない。最も適切な監査指摘はどれか。

- ア．参加人数が多ければ実効性は十分である
- イ．訓練が完了すれば時間測定は不要である
- ウ．RTOは本番障害だけで測定する
- エ．訓練の成否を客観的な復旧目標と比較できず、計画の実効性を評価できない

答え・解説

正答：エ

ア：成果指標が必要である。

イ：目標達成を検証できない。

ウ：訓練で検証することが重要である。

エ：訓練ではRTO/RPOや業務復旧レベル等の評価基準を事前に定める必要がある。

総合解説：監査では訓練ごとに発動時間、連絡、切替、データ回復、業務再開、目標達成を測定しているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0141

事業継続・システムライフサイクル>保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：基礎

本番システムの保守変更を監査する際、最も基本的な統制はどれか。

- ア：変更要求、影響評価、承認、テスト、本番反映、結果確認を記録して管理する
- イ：小規模変更は全て無承認で実施する
- ウ：開発者が本番を直接変更し記録しない
- エ：変更後の確認を行わない

答え・解説

正答：ア

ア：保守変更も本番品質・可用性に影響するため正式な変更管理が必要である。

イ：小規模でも影響に応じた統制が必要である。

ウ：職務分掌と追跡性を損なう。

エ：不具合を見逃す。

総合解説：監査では保守作業が変更・構成管理と連携し、緊急変更も事後レビューされているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0142

事業継続・システムライフサイクル>保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：基礎

旧システムから新システムへデータ移行する際、最も適切な完全性確認はどれか。

- ア：画面が表示されれば全データ移行成功とする
- イ：移行前後の件数・合計値・ハッシュ等を照合し、例外データを追跡する
- ウ：移行元データを先に削除する
- エ：エラー件数を記録しない

答え・解説

正答：イ

ア：網羅性・正確性を確認できない。

イ：移行ではデータ欠落・重複・変換誤りを客観的に検証する必要がある。

ウ：比較・再実行が困難になる。

エ：未解決データを把握できない。

総合解説：監査では移行ルール、変換プログラム、リハーサル、照合、例外処理、承認を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0143

事業継続・システムライフサイクル > 保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：基礎

システム切替計画にロールバック手順を用意する主な理由はどれか。

- ア．必ず旧システムへ戻すため
- イ．新システムのテストを省略するため
- ウ．重大な不具合が発生した場合に、事業影響を限定して旧環境へ安全に戻せるようにするため
- エ．移行後のデータを無条件に破棄するため

答え・解説

正答：ウ

ア：成功時は戻す必要はない。

イ：ロールバックはテストの代替ではない。

ウ：切替失敗時の代替策を事前に準備することでサービス停止リスクを低減する。

エ：切戻し時のデータ整合性を管理する必要がある。

総合解説：監査では判断基準、責任者、切戻し可能時間、データ同期、業務連絡、リハーサルを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0144

事業継続・システムライフサイクル > 保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：標準

移行前のデータクレンジングを監査する際、最も適切な確認はどれか。

- ア．担当者が自由にデータを削除する
- イ．原データとの対応を残さない
- ウ．業務部門の確認を一切行わない
- エ．修正・統合・除外ルールが承認され、原データとの対応と変更履歴を追跡できるか

答え・解説

正答：エ

ア：正当性と追跡性がない。

イ：移行後の検証が困難になる。

ウ：意味・品質の判断に業務知識が必要である。

エ：クレンジングでデータを変更するため、恣意的な削除や誤変換を防ぐ統制が必要である。

総合解説：監査では品質基準、ルール承認、例外、業務確認、監査証跡を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0145

事業継続・システムライフサイクル> 保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：標準

システム廃棄を開始する前に最も重要な承認はどれか。

- ア．業務・法令・契約上の保管要件と依存関係を確認した上で、システム所有者が廃棄を承認する
- イ．利用者が少ないだけで無承認廃棄する
- ウ．バックアップの保管要件を確認しない
- エ．他システムの連携を確認しない

答え・解説

正答：ア

ア：廃棄はデータや証跡を不可逆に失う可能性があるため、計画と承認が必要である。

イ：重要な記録や依存機能を失う可能性がある。

ウ：法令・監査証跡に影響する。

エ：依存先へ障害を与える可能性がある。

総合解説：システム管理基準は廃棄計画・廃棄実施・廃棄結果検証を独立したプロセスとしている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0146

事業継続・システムライフサイクル> 保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：標準

廃棄する記憶媒体の情報漏えい防止策として最も適切なものはどれか。

- ア．ファイル名だけ変更して廃棄する
- イ．情報の機密度と媒体特性に応じ、復元困難な消去・破壊を行い、実施証跡を残す
- ウ．ゴミ箱を空にすれば必ず復元不能とする
- エ．委託廃棄なら証明書を確認しない

答え・解説

正答：イ

ア：データは残る。

イ：通常のファイル削除だけではデータを復元できる場合がある。

ウ：媒体上に残存する可能性がある。

エ：委託元として廃棄結果を管理する必要がある。

総合解説：監査では消去方式、委託先、輸送、証明書、台帳更新、例外を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0147

事業継続・システムライフサイクル>保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：標準

IT資産台帳を維持する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．購入価格だけを記録する
- イ．廃棄後も稼働中として残す
- ウ．ハードウェア・ソフトウェア・クラウド等の所有・利用・状態を把握し、セキュリティ・保守・契約・廃棄を管理する
- エ．SaaSは物理資産でないので台帳対象外とする

答え・解説

正答：ウ

ア：管理に必要な属性が不足する。

イ：台帳と実態が乖離する。

ウ：資産を把握できなければ、脆弱性・ライセンス・更新・廃棄等を網羅的に管理できない。

エ：契約・アカウント・データ管理の対象として把握する必要がある。

総合解説：監査では所有者、設置場所、利用者、バージョン、サポート期限、契約、状態、廃棄日等の正確性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0148

事業継続・システムライフサイクル>保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：標準

サポート終了（EOL）製品を継続利用している場合、最も適切な監査対応はどれか。

- ア．稼働している限り問題なしとする
- イ．EOL情報を資産台帳で管理しない
- ウ．担当者の口頭判断だけで無期限利用する
- エ．脆弱性・障害・互換性リスクを評価し、移行計画又は期限付きの代替統制とリスク受容を確認する

答え・解説

正答：エ

ア：新たな脆弱性や故障への対応が困難になる。

イ：更新計画を立てられない。

ウ：権限者によるリスク受容が必要である。

エ：サポート終了後は修正提供が限定されるため、継続利用リスクを正式に管理する必要がある。

総合解説：監査では製品ライフサイクル、サポート期限、移行予算、代替統制、経営承認を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0149

事業継続・システムライフサイクル > 保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：応用

システム廃棄時のソフトウェアライセンス管理として最も適切なものはどれか。

- ア．利用停止・契約解約・ライセンス回収を行い、資産台帳と契約台帳を更新する
- イ．システムを停止すれば契約は自動解約されるとみなす
- ウ．ライセンス台帳を更新しない
- エ．クラウド契約の自動更新を確認しない

答え・解説

正答：ア

ア：システム停止後も契約が残れば不要費用が発生し、再利用可能ライセンスを失うことがある。

イ：契約条件に従った手続が必要である。

ウ：保有数・利用数が不正確になる。

エ：不要な課金が継続する可能性がある。

総合解説：監査では終了通知期限、データ返却、ライセンス回収、機器返却、台帳更新、費用停止を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0150

事業継続・システムライフサイクル > 保守・移行・廃棄・資産管理 | 難易度：応用

新システム移行後に旧システムを一定期間残す場合、最も適切な統制はどれか。

- ア．旧システムへ全利用者の書込み権限を残す
- イ．旧システムの利用目的・期間・アクセス権・更新可否を限定し、廃棄期限を明確にする
- ウ．廃棄期限を定めない
- エ．旧システムのデータ保護を停止する

答え・解説

正答：イ

ア：データの二重更新が起こり得る。

イ：並行期間を無期限にすると二重更新・情報不整合・不要コスト・セキュリティリスクが増える。

ウ：レガシーが恒久化する。

エ：保有中は適切な統制が必要である。

総合解説：監査では参照専用化、差分管理、利用ログ、保守範囲、廃棄条件、法定保存要件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02